

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	久保田 理

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学 (旧約聖書)	1	前期	必修	はい	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①1年生の必修科目であるため、受講動機はその点に集中している。</p> <p>②チャペルアワーと関連付けられた科目であるため、聖書を読むこと、讃美歌を歌うこと、祈禱をすることの実践を毎回の授業で行うことで、チャペルアワーへの出席意識を高める。</p> <p>③キリスト教に対する理解を持つことを目的に、キリスト教の礼拝で行われていることについて段階的に講義を行う。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生の授業評価アンケートの結果など, できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」, 「学習到達度の自己評価」, 「学習量の評価」, 「学修のための情報利用」, 「図書館, インターネット利用」, 自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均点は83点であり、再試対象は0名であった。</p> <p>全員が標準的レベルに達していた。</p> <p>知識理解という点では十分な理解が得られたと考えられる。</p> <p>実践の点では授業期間中に提出する「教会訪問レポート」を実施することで、キリスト教礼拝を体験することが授業内容の確認につながったと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本科目は「総合人間科学」の「文化と宗教」であるが、本学の建学の精神である「感恩奉仕」を学ぶ科目であり、必修である。多くの学生がキリスト教に馴染みがないため、社会との接点を示しながら理解の助けとしたことから、内容的には妥当であるとする。

②DP、行動目標からみでの内容の妥当性

成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。

③まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価における平均値は問題がないと考えられる。

学習量の評価では、予復習時間の解答に「0回」が多かったこと、また自発的学習の解答に「していない」が多かったことから、授業の内容をチャペルアワーに明確に関連付けることが必要であるとする。

また、学生の意見でも「何をすれば良いかわからない」があったことから、この点は課題とすべきであるとする。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

キリスト教主義学校としてキリスト教理解の入り口となるのが本科目の位置付けである。その意味では知識理解の形成では達成出来た。また、チャペルアワーの出席と合わせて、キリスト教礼拝の実際にもふれる機会があり、理論と実践の実施も出来ている。キリスト教の価値観を学ぶことは、新しい視点を得ることもつながり、判断の多様化を促すことにもなっている。

ただし、そのことを得たと実感することとは別になっている面もあり、本科目の課題として考えていきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>科目の名称通りキリスト教に重点を置き、また、西南女学院と大学の歴史的転換点における内部での議論やその後の方向性について講義出来る方々を厳選させていただき、講義を行った。宗教主任補佐のラス・ボーグ先生は本学院についての研究者であるため、動画による3回の講義をお願いした。クラスポートフォーリオ提出8回、及びまとめレポート20点で合計100点とした。</p>
---	--

4

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>学生の出席率は全ての講義時間において各学科で90%を超えており、出された回答は熱心に書かれ、講義の内容も十分に把握されていた。講義者により多くの画像が配信されたため、印象深い回答がほとんどであった。したがって大部分の学生の成績は優、あるいは秀であった。</p>					
	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

CP：この科目は総合人間科学の必須科目であり、本学の寄付行為や建学の精神、また、大学の設置趣旨の最初の項目に相当し、CP上妥当であると考え

る。
DP：この科目の目標は①西南女学院の歴史を知り、建学の精神「感恩奉仕」について理解を深めることができる。②設立者や宣教師たちの精神と働きを学び、「西南女学院生」としての自己形成を深めることができる。③キリスト教に基づく女子教育の意義を理解し説明できる、であり、DP1-1とDP4-1に相当しており妥当と考える。

上記より、内容的妥当性に問題はないと思われる。

なお、全学科の到達度自己評価の平均値は3.8で、自由記述からも特に問題点は見られなかった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価では、提出物の評価基準、学習範囲や課題、理解しやすさの平均は3.8であった。大人数授業のため学生参加の機会、質疑応答の機会提供が難しいが、今後は学生が発言できる機会を積極的に設けていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

久しぶりの対面授業、そして今年度は100周年ということもあり、どの学科の学生も意欲的に学ぶことができた。今後も、学生が本学の歴史や特色を十分に理解した上で、それぞれの専門科目に取り組み、西南女学院生としての自己形成の土台を築くことができるよう、内容を工夫したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	坂田 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	はい	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>大学は、学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり、基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力が求められる。これらの力を獲得するためには、ただ単に基礎的な知識を効率よく覚えるということではなく、自らが積極的に課題を探索していく姿勢をもたなければならない。</p> <p>初年次セミナーは、初年次セミナーⅠおよびⅡで構成されており、スタディ・スキルズを身につけ、大学での学びの質を高めることを目的とした。本初年次セミナーⅠでは、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本である「聞く」「調べる」「読む」「書く」「考える」の強化を図った。具体的には、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等のICT活用法など、大学で主体的に学ぶ技法の習得を目指した。また、情報倫理に基づくメディア・リテラシーの習熟を図った。</p> <p>受講動機は、必修であるが故に動機の特長は見出せない。また、学生の入学時の状況は、学修の準備性は期待できない。この科目は学習の準備方法を教え、準備性を高め、学習効率を高めるセミナーである。本講の受講後に格段の学修準備性が高まると考える。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の「成績」において、平均80.2±7.9点であり、標準的レベル(70点以上)に達した。本試験の難易度が低かったのではなく、全学生の修得意欲に個人差が無かったと考える。これ以上は意味を持たないが、理想的レベル(80点以上)は25名(67.6%)、標準的レベル(70点以上)は34名(91.8%)であり、約9割の学生が標準的レベル以上を達成できたと見える。</p> <p>「自己達成度」において、平均値が全項目で3.8～4.2の間にあり、すべての学生が自分なりの目標を達成していた。予習、復習の課題が少ない科目であるが、授業以外の取り組みは43.2%(16名)が実施しており、「栄養士・管理栄養士について詳しく調べた」、「わからない単語を検索した」、「講義中に気になったことを調べた」といった意見が多数認められた。さらに、図書館の図書や雑誌を利用した学生が、18名(52.9%)いた。</p> <p>本科目の内容は、大学の講義を受講する上で、更には管理栄養士国家試験のための学習を成就する上で極めて重要である。前述した意見から、本科目の授業構成は、学生の興味を引く内容であり、授業外の学習を行うといった学生の自律的行動に繋がったことが推察された。</p>					

5. DP, CP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性
本科目は学習の動機づけが十分達成できており、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。

② DP, 行動目標からみての内容的妥当性
成績評価から「知識理解」「思考判断」「意欲感心」ともに達成度は高かった。授業中のフィードバックも十分なされ、授業内容は妥当であったと考えます。

以上から、内容的妥当性は問題ないと考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の質の評価」の平均値は、3.9～4.2であったことから、授業の進め方は良好と考える。

学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習、復習をまったく行っていなかった学生がそれぞれ58.8% (20名)、44.1% (15名) いた。しかし、授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生は、52.9%(18名)と非常に多い値を示したが、2021年度に比べて10%近く低下した。特に、課題以外に具体的に取り組んだ学習では、本学科の専門性である「栄養士・管理栄養士」の業務に興味を抱き自主的に調べ学習を行ったという学生が数多く認められた。前年に比べ、授業の導入において、本科目および授業の意義について説明を行ったことがこれらの意見につながったと考えられる。

授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として、「何をしたいかわからなかった」、「特にすること・課題がなかった」、「他の課題に追われた」が多かった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

初年次セミナーⅠは、大学での学びとは何か、管理栄養士の専門性とはなにかを学び、資格取得するための学習を成就ことを意識づける上で、極めて重要な科目である。本年度の授業構成においては、「栄養士・管理栄養士」の資格に興味を持つ学生が多く認められ、授業以外に具体的に調べ学習するという学生の自律的行動に繋がったことが窺えた。

しかし、研究や実習、ゼミ、更には就職後も活かせるようこれらの行動を定着させ、いつでも実践できるように体得することが最終目標である。そのため、更なる充実した内容を検討する必要がある。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>管理栄養士の必修科目として「健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系」の基礎知識の理解と把握に重点を置いた。また、健康に関する情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含めた人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるよう授業計画を構成した。また、授業計画では教科書等の予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませるよう促した。出欠アンケートで、まとめと質問を設け、学生の理解度を高めた。その結果、授業で内容を理解しようという姿勢が全授業を繰り返すに従って向上した。授講の理由は必修科目であるためが92%と多い。ただ、この科目に関心があると答えた学生が14%と低く、健康や生理学が基本となる学部でこの科目に関心が低いことは問題である。学生の各科目に対する位置付けがどのように形成されているか、専門家を育てる学科として考えるべき点と思われる。管理栄養士の必修科目として「健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系」の基礎知識の理解と把握に重点を置いた。また、健康に関する情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含めた人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるよう授業計画を構成した。また、授業計画では教科書等の予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませるよう促した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は81±2.1点で、再試対象は0名であった。</p> <p>全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは20名（38人中、53%）であった。</p> <p>目標達成できたと答えた総数は34人中37名で高値を示した。</p> <p>「達成度」は平均値が全項目で2.8～4.0の間にあり、「授業の質の評価」も3.1～4.1であった。「コミュニケーション力・表現力の獲得」は15名（41%）が不足を感じており、コロナ禍の影響を受けていると思われる。</p> <p>予習、復習の課題が少なく、授業以外での取り組みは37人(37名中)と全員取り組んでおり、素晴らしい結果であった。</p> <p>シラバスの情報を参考にした者22名と、コロナ禍では理解不十分な場合にシラバスから情報を得ようとしていると思われる。</p> <p>欠席する者少なく全員が積極的に受講していたと考える。今後、より真の関心を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。</p> <p>自由記述では、概ね分かりやすい授業だったという意見が多く授業進行は良かったと思われる。</p>
---	---

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性について
本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識である。また、生活信念、健康志向、美容的自己管理においても大きく関わりのある科目内容である。学生が一定の成績を収めていたことから、内容的には栄養系の学生にも妥当な内容であったと考える。

②DP, 行動目標からみての内容的妥当性について
成績評価から、内容的妥当性は十分あったと思われる。興味が高まれば、もう少し深く進める事も出来ると考える。

③受講動機で内容に関心がある学生よりも、単位獲得目的の学生の方が多く、「受講動機」が曖昧な学生も多い中、「学習到達度の自己評価」は37名(34人中)が達成できたと考えており、栄養科の学生に妥当な内容と考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価において、予習を全くしなかった者が26名(37名中)と残念な結果と言える。
毎回授業の復習、興味関心をアンケートしたことがこのような結果に結びついていないと考える。
シラバスを参考にしなかった者が15名(37名中)、授業計画を立てなかった者15名であった。
オリエンテーションにて十分な説明をしたせいかシラバスの利用者は14名と少ない。
次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

健康管理、健康づくりの基礎的知識の形成は概ね達成できた。
授業過程を振り返って見たとき、予習課題の提示などで改善を図りたい。
以上から、毎回のねらいを具体的に示すこと、振り返りアンケートにおいて、授業内容について問題を作成する課題を課している。
この結果から、来年度に向けた改善を行いたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	はい	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①学期の始講と最終講に、体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果を体感し把握させた。</p> <p>②3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。</p> <p>③各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターで自己の運動量を把握させ、運動の理解と意欲を喚起した。</p> <p>④1および3について毎時間記録と評価を行い、学期末に集計して実習期間全体の自己評価を行い、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の自覚と運動量の関係が理解できるように努めた。</p> <p>⑤チームスポーツでは、入学直後であることを考慮し、チームが固定的にならないよう種目が変わる毎にメンバーを替え、可能な限り多くの人とコミュニケーションが取れるようにした。チームではミーティングを試合前後に行わせ、ゲーム戦略立案と実行方法、チーム内での個人の行動や役割のポジティブなあり方を意識した行動実行を促した。また、試合後には必ず良い点や悪い点、次の試合に向けての改善点(課題)などをチームミーティング後、記録用紙にまとめ意識化し、チームで活動するための必要な要因を考えさせ、意識させた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は89点 (SD6.6)であり、再試対象は1名であった。ほぼ平均点は標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものが19名（28名中,68%）と予想以上に多かった。</p> <p>達成度に関する自己評価では目標達成できたと答えた総数は21人(21人中)で高値を示した。</p> <p>目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」は21名、「事象理解の視点を得た」と思う者は20名、「課題検討力」を得たと答えた者21名、「判断力を得た」20名、「学習意欲が得られた」20名、「必要技能を得た」19名、「表現力の向上」21名、「倫理規範獲得」20名、「職業選択の参考」18名と高い自己評価を持たすことができた。</p> <p>欠席する者少なく全員が積極的に受講していた。今後、関心の数字を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。</p> <p>意欲関心を高めるために、種目やその歴史背景なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい。学生による授業評価では、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは、学生が思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて、ルーブリックで示すだけでなく、各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫するようにしたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。

③受講動機で内容に関心がある学生が38%で、単位獲得目的の学生が38%である。「受講動機」が曖昧な学生も多かったが、「学習到達度の自己評価」は100%が達成できたと考えており、栄養科の学生に妥当な内容であったと考える。

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっては言葉かけのタイミングを検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保健福祉学入門	1	前期	必修	はい	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、1年生前期に配置された必修科目である。保健福祉学部の教育への導入科目となっている。看護学科、福祉学科及び栄養学科における学びをスタートするにあたり、保健・医療・福祉の専門性を理解するために本学教員の学問領域にふれ、多職種協働の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題の認識を深めていくものである。</p> <p>受講動機には「必修科目である」が94.6%となっており、「関心のある内容である」は24.3%であり、初学者である受講生にはシラバスのみでは、授業の意図する部分については理解されにくいことが考えられる。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は、82.9点、再試対象者は0名であった。標準的レベルに達した者100.0%、内、理想的レベルに達した者71.8%であった。</p> <p>目標別にみると、知識理解は87.2%、関心意欲は75.9%、態度は79.2%であった。</p> <p>到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」が4.4、「自分が学ぼうとしている専門分野について、的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が4.3、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「職業選択の参考になった」が4.2であり、科目としての一定の成果が出ていると評価できる。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性
本科目は、保健福祉学部の教育を学ぶにあたっての必修の導入科目である。
到達度自己評価および最終的な成績評価からも科目の目的は、果たしていると判断でき、内容的にも妥当であると考ええる。

②DP行動目標からみた内容的妥当性
知識理解、意欲関心及び態度に位置付けられた科目である。知識理解は87.2%、関心意欲は75.9%、態度は79.2%であり、概ね内容的には妥当であると考ええる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」4.3、「説明は理解しやすいものであった」4.2であった。
自由記述では、3学科合同講義の意義を理解し知識を深めることができたことや見聞を広めることができ、これからの学びに関心が深まった等の意見が寄せられていることは、保健福祉学の導入科目としての目的を果たしていると考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目の達成状況については、授業成績及び授業評価アンケートより計画している状況は、概ね達成できていると評価できる。
学生が4年間の学びのスタートとして、保健福祉学への理解と関心を高める科目としての目的を果たせるよう、担当する教員とさらなる充実を目指したいと考える。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この地球上に生命が誕生して、約38億年が経過し多様な生物の出現と絶滅を経て、現在は数百万種の生物が存在している。その生命進化における生物の一員としてのヒトを認識し、それ以外の地球上の生命体の多様な生き方を知ることは、意義あることだと考えられる。生命の持つ共通性は、近年、より深く追及されその意味が明らかになりつつある。これと並行し、生命の多様性にも注目が集まり、急速にその知識が蓄積されており、生命の共通性と多様性について理解を深めていくとを目的とした。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①今年度の結果</p> <p>本試験の合格者は39名中36名、追試で2名合格であった。平均点は75.3±7.96点であり、標準的なレベル（概ね70点以上）に到達していると考えられる。理想的なレベル（概ね80点以上）に到達した学生は10名おり、受講者の1/4が理想的なレベルに達していたことになる。</p> <p>②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」及び「授業の質」において、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な評価が90%以上である項目が多いが、「コミュニケーションや表現力」、「職業倫理や行動規範」、「学生が参加する機会」などについては、「少しそうでないと思う」以下が多い項目では50%程度であった。この科目は総合人間科学の知識の習得に重きを置く科目であるため、グループ学習のようなものを取り入れることも検討したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性
本科目は「学部共通科目の基礎教養科目」であり、選択科目である。生活するうえで、必要な或いは普遍的な身につけておく必要のある科目と考えているが、高校で習得した生物基礎すら記憶に残っていない学生もいたようである。しかしながら、平均点で標準的なレベルを超えていることから、内容は妥当であったと考えられる。

②DP、行動目標から見ての内容の妥当性
成績評価と学習到達度についての学生の自己評価からみて、目標を標準的なレベルでほぼ達成できたので、内容的には妥当であったと考えられる。

③まとめ
以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.5と低かった。身近な現象や、病気などを例に挙げて問題提起をするよう心掛けていたが、学生同士で議論しまとめ、発表するという時間をとることができなかった。予習・復習や自発学習を行っていない割合が多いのも反省点である。次年度に向けて、配布資料を前もって配ることにより、予習を促し、途中で小テストを入れるなどして、復習する動機づけを検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学部共通科目の基礎教養分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度について定期試験の結果からほとんどの学生が標準的なレベルで取り組んだものと判断できることから、概ね目標をクリアできたものとする。講義時間中の質疑応答は、比較的自由に行えるようにしていたが、事例について学生同士でじっくり時間を取って検討し、発表する時間がなかったことは反省点ではある。しかしながら、教養的性格の強い生物学であるため、基本的には知識の習得に重きを置くべきと考えている。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	齋藤 朗宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
数学リテラシー	1	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>これまでの年度と同様に、1年生、全学対象、かつ苦手な学生の多い数学ということであり、また、受講の動機からも、基本的には興味関心よりは単位取得を目的として受講している科目であるため、内容理解へのモチベーションを上げる必要から、テーマを身近なものにすることを特に意識した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業アンケートの結果からも到達度自己評価において平均的に3.5～4程度の結果になっており、ある程度達成できたとは考えている。ただ、オンデマンド配信の形式から対面授業への形式に戻った結果か、課題の難易度は大きく動かしていないにもかかわらず平均成績がやや低下している点が懸念事項である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は特定の学科のカリキュラムに関連すると言うよりは、全学共通の教養科目であるため位置づけは難しいが、学習到達度について概ね達成されたと評価できるため、この点についても大きな問題はないと考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学修時間等はある程度確保されており、基本的には問題なさそうである。ただ、オンデマンドで実施していたときには課題を実施しながら復習するなどが可能であったが、対面に戻った結果そういった復習の仕方ができなくなったためか、平均成績が低下している点が懸念事項としてあるため、配付資料などから復習しやすくすること、また、毎週の課題が成績評価上重要であることをもう少し繰り返し指導していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

オンライン授業になった2020年度に授業の進め方などを見直し、それに基づいて本年度も授業を実施した。その結果、基本的には成績評価の基準も明瞭になり、何をやれば良いのかという意味ではわかりやすくなっていると言えそうである。一方で、一度しか聞くことのできない対面授業という前提に基づいて、もう少しわかりやすくする点については改善していきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1	前期	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は選択科目である。栄養学科の基礎科目である生化学のさらに基礎に位置付けられる科目である。したがって、化学の基本的事項の中でも特に生化学や栄養学を学ぶものにとって重要な化学の基礎的知識と化学反応に関する基本的な理論・法則を重点的に扱っている。特に生化学を学んでいく上で（私の講義を理解していく上で）必要な項目に焦点を当てて行っている。学生には、化学的な用語や化合物の定義、代表的な有機官能基の代表的な反応、触媒の定義と働き、酸化還元について、最低限の定義、理論および法則を身につけることが、特に今後生化学を学んでいく上で重要であることを強調し、指導している。</p> <p>②講義は、スライド中心に進めている。Classroomに投稿した配付資料は、主に用いたスライドから特に重要と考えられるものだけを抜粋して配布した。すべてを配ると講義をおろそかにする学生が逆に増えると考えていることが理由である。</p> <p>③講義に用いるスライドは、前年のものに改訂を加えて用いた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終成績の平均は83点、受講登録者37名中36名合格であった。90点以上が14名、うち3名は100点であった。80点台は7名であった。昨年度に引き続き本年度の1年生も講義に意欲的に取り組んでいた。講義中に指名して質問した際に積極的に答える学生の割合が多く、講義に活気が感じられた。試験問題は、基礎的知識（化合物や代謝経路の定義等）と問う問題、基礎的な思考力を要する問題を併せて9割以上、やや高度な思考力を要する問題を若干の割合で出題した。本年度入学の学生が受講態度、意欲や積極性をこのまま高いレベルで4年間を過ごし、成長していくことを期待する。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①本科目は、総合人間科目、学部共通科目、選択科目である。基礎的かつ本質的なテーマに重点を置いており、内容的には妥当と考える。
②DPでの位置づけは、知識理解を問う科目である。目標達成度は充分であり、内容的には妥当と考える。
全体としては、妥当な内容であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度は、数値上、良好な目標達成度を得られたと考えている。学生の受講態度は良好で、意欲もあった。今後もさらに意欲と積極性を発揮することを期待する。

本科目の講義内容は、講義のタイトルである「生活の中の化学」に鑑みると、生活や身の回りの事例等に則するという面を本年度は意識したつもりであったが、まだ不足していたと考えている。次年度以降は、タイトルに則した事例をもっと取り入れた内容にすることで、多くの学生にもっと親しみの持てる内容の講義にしていくつもりである。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本年度は、合格率、平均点とも極めて良好であった昨年以上の結果であった。本年度は、達成度について特記することはない。本年度の学生の受講態度は、高評価に値するものであった。好成績は主に学生の意欲に追うところが大きいと考えている。このことが生化学Ⅰへとつながっていくことを期待する。次年度からも講義の内容に改良を加え、学生の意欲を高いレベルに維持していくことが課題と考える。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	木梨 安子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実用英語コミュニケーション	2	前期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>英語と日本語の基本的な違い(例えば、語順や時制表現など)をわかり易く説明しながら、専門分野に対応したテキストに記載の英語表現を会話・リスニング・リーディングの学習活動を通して身につけることに重点を置いて授業を進めた。毎回の授業では、前回の授業の学習知識を定着させる目的で小テストを実施し、それから当日の授業の本題に入るという形をとり、その積み重ねとして最後のまとめテストに至るとい進捗内容を実施した。今年度の改善点として、昨年度のアンケートを参考にし、一般的な内容だけでなく専門的な内容が取り上げられているユニットまで進めたことにある。一般的な表現から後半は栄養士が登場してアドバイスを相手に与えていく会話内容を学ぶことにまで学習範囲を広げたことは昨年度に比べ専門分野のコミュニケーションとしての目的をある程度、満たせたのではないと思われる。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全体として、授業に対して興味があるのかないのか伝わってこないというのが全体を通しての感想である。日ごろの小テストや最後のまとめテストである程度の成績を納め、受講生全員が単位を取得した結果を見ればある程度の受講価値はあったのかもしれないが、盛り上がりがない沈んだ雰囲気の授業の原因が、授業の内容以前の問題だとすれば授業担当者として改善する余地はない。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

今年度も英語の基礎力不足を受講生に対して例年と同様に感じ、その基礎力をつける授業内容を中心に学習を進める必要があった。コミュニケーションを取れる基礎力は、英語の基礎力が根底になければならない。その点が不十分であれば、そこから学ぶ必要が生じてくる。英語Ⅰ・Ⅱで学習しておかなければならない英語の基礎力を再度確認しながら、一部コミュニケーションに有効な表現を学ぶという位置づけでこの授業の学習内容を立て直す必要を感じている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

どんな分野の英語であっても学習者の熱心度で対応できる基礎力がつくよう指導をすることが第一だと考えている。その点からは今回もブレることはなかったと思うが、使用テキストや学習項目の見直しをし、もっとメリハリの効いた授業をする必要はあると感じている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

純粋に英語を学びたいという受講生の意向と純粋に自らが時間をかけて身につけてきた英語知識を伝授したいという授業担当者の相互の気持ち結びついて初めて授業成果が出てくる。信頼関係がなければ授業は成り立たない。その関係が今回の授業で成り立っていたかどうか、疑問が大いに残る。せっかくの学ぶ機会を妨害するような必要のない圧力がかかっていたのであれば、今後の授業の課題を立てる以前の問題であり、また改善し立てたとしても望む成果は出ないであろう。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	韓 京我

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハンゲル入門	1	前期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の受講動機をみると「関心のある内容である」、「単位数を確保する」との回答をしていることからわかるように、もともとK-POPや韓流ドラマなどの影響を受けている学生が多く、できるだけK-POPアーティストや韓流ドラマ俳優などが使うフレーズや言葉なども文法学習で取り入れながら、学生が韓国カルチャー情報を見る際に実際役立つような授業も心がけながら、学生の自発的な韓国語学習を促すことに重点を置いて取り組みたい。②授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを行った。③毎回小テストと会話練習を行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。④授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由には、「どのようなことをしたいかわからなかったから」もあったため、これについて復習項目と次回講義の予告をすることで自習を促す。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された				やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は81点であり、再試験対象は0名であった。全員が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上）に達したものは、7名だった。目標別に見ると、知識理解に関しては86%、機能表現は81%であった。知識理解では、与えられた課題を解決する際に知識をどのように応用するか、また機能表現では、文字読み取りテスト、挨拶テストと自己紹介テストの実施で、「知識を新たに得ることができた」と「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」で高い満足度が見られ、講義の重点を置いている点と学生の満足度が一致する結果が得られた。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性試験の結果で見られるように第二外国語として目標とした成果を挙げられたので、内容的に妥当性があると考えられる。②DP 授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。③まとめ 以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進度は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかり把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。また韓国語の発表の時間や会話の機会などコミュニケーションを図れるよう努めた。最終テストでは全員の平均点が高く、語学の基礎的レベルには十分達したと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケーションの第一歩を確実に踏み出せたと考える。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	本間 学

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>選択科目であり、さらに学生のスキルの幅も大きいことが予想されたことから初心者を中心として時間を掛けて説明し課題を設定した。</p> <p>今回の受講動機をみると「関心のある内容」が53.3%、「単位数を確保する」が66.7%と、かなり消極的な理由から受講した学生が多いことが示唆するものであった。できるだけ具体的な例を挙げて、関心を持たせることをしてきた。</p> <p>①著作権、SNSの利用、スマートフォン利用に関して動画を利用して理解を深める工夫をした。</p> <p>②PowerPointでプレゼンテーションにおいて個人の技術習得を目指し個人毎にプレゼンテーションを作成しグループ毎で全員が発表した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の成績の平均値は83.1であり標準偏差は7.5であった。成績は課題(80%)、プレゼンテーション(20%)として評価した課題の提出、出席状況、およびプレゼンテーションの発表状況は良く、理想レベル(80点以上)は上まわっているので良しとすべきだろう。</p> <p>学生の到達度自己評価の平均値は3.5～3.8と学科に比し低いが、「まあまあ」と「わりに」にのみ集中しているので、善くも悪くもなかったという実感ではないかと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性

本科目は「総合人間科学」であり、選択科目である。大学のカリキュラムポリシーにIT活用能力が含まれること、および成績評価から内容的には妥当であると考えられる。

②DP、行動目標からみての内容的妥当性

成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であると考えられる。

③まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.6、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.7と高かった。学生性の成績とを踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう改善していきたい。

②学生の意見として、否定的意見はなかった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。ただし、授業過程を振り返ってみたとき、学生同士、学生と教員でのコミュニケーションをとる時間足りなかったことが到達度自己評価、授業の質評価から分かったのでコミュニケーションを取る機会を増やす工夫として学生からの教員への質問カードや学生同士の発表の時間を作るような時間を作るなど、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報処理基礎	1	前期	選択	はい	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>授業の内容については従来の通り、「情報処理基礎」の名称から連想される内容とは異なり、操作技術を習得する課題ではなく、情報を検索し、思考しまとめる課題を課した。</p> <p>また、サイバー事件に巻き込まれないための知識・技術を見につけることを重視している。具体的には、タイピングの練習に日本国憲法の全文を打たせ、読めない用語にルビをふり、意味を調べ、印象に残った条文とその理由、意見・感想を最後に付加しレイアウトを整えて提出させた。</p> <p>ネット犯罪および著作権に関しては、警視庁のサイトで公開の対策ビデオを視聴しWordでレポートを作成する課題を課した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績は、A：28.2%、B：38.5%、C：17.9%、D：15.4%であった。</p> <p>授業評価の折に行った、行動目標について「出来る」「なんとか出来る」「出来ない」の3段階自己評価における「出来ない」の割合は、(1) 3%(7%)、(2) 0%(14%)、(3) 0%(37%)、(4) 18%(7%)と、昨年に比べて減っており、「出来た」の割合は、(1) 36%(19%)、(2) 79%(67%)、(3) 48%(26%)、(4)は9%(51%)と、WordおよびExcelの基本操作に関する評価を除いて増えている。</p> <p>(1) 2進数およびデータ量の単位と接頭辞を理解する。 (2) ネットワークエチケットを守ることができる。 (3) インターネット事件の概要と予防方法を説明できる。 (4) WordおよびExcelの基本機能が使える。</p> <p>成績および行動目標の自己評価の結果より、教育目標は達成されたと判断した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP, CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、成績評価および行動目標の自己評価の結果より、「知識・理解(DP1)」「技能表現(DP5)」共に内容的妥当性に問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

スマートフォンやipadなどの普及により、家庭等でパソコンに触れる機会が減っており、タイピングおよびWordやExcelの基本操作の練習に時間を割く必要があると感じている。

また、サイバー事件の被害者・加害者にならないためにある程度の時間を確保する必要があると考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

大きな問題はなかったと考えている。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報の理解と表現	2	前期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機をみると「資格取得に必要である」「必須科目である」を合わせると92.9%となっており、ほとんどが教職課程の履修生であることが分かる。</p> <p>そこで意欲的に課題に取り組めるように、身近な問題で、かつ教材となるようなテーマを取り上げた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績は、A：68.8%、B：31.3%であった。</p> <p>授業評価の折に行った、行動目標について「出来る」「なんとか出来る」「出来ない」の3段階自己評価における「出来ない」の割合は、(1) 7% (1名)、(2) 0%、(3) 0%、「出来る」の割合は、(1) 7%、(2) 36%、(3)は36%であった。</p> <p>(1) テキスト、図、グラフ、表を使って読みやすく、見やすい文書が作成できる</p> <p>(2) テキスト、図、グラフ、表を使って見やすく、魅力的なスライドが作成できる</p> <p>(3) テキスト、図、グラフ、表を使って読みやすく、見やすい魅力的なポスターが作成できる</p> <p>行動目標の評価において「出来ない」と回答した学生は(1)で7% (1名)であり、全員がレポート、スライド、ポスターを仕上げプレゼンテーションを行うことができた。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① P、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は「アカデミックスキル」の科目であり、栄養教諭1種免許必修科目である。受講生全員が栄養教諭資格を目指しており、動機付けに苦慮することなく、学生は、提示した課題に応えるように工夫し、良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。

② P、行動目標からみでの内容的妥当性
成績評価、および行動目標の評価より内容的には妥当であったと考えます。

③ とめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価に全てにおいて平均が4点以上であったことから授業の進め方に問題はないと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

大きな問題はなかったと考えている。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
北九州の技と文化	3	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>大学の5学科からの受生（80名）がおり、開講3年目で初めての対面授業となった。最初に採点対象学生数とアンケート回答者数()を示す。看護12名(4)、福祉:26名(9)、栄養:7名(4)、英語:9名(3)、観光文化:26名(6)。栄養学科の学生への授業評価アンケートでは、4. 学習量の評価の(1)授業前の予習時間が、昨年度までは、ゼロであった。これは予習課題を掲示していないことから当然であった。今回は外部講師には授業1週間前には、少なくとも30分は事前学習が必要な教材を公開できるように依頼した。5名の外部講師は、動画、文字資料の形式で課題を出してくれた。4. 学習量の評価の(1)授業前の予習、(2)授業後の復習時間については最多の項目は、①(0回)が、それぞれ3名、2名であり、アンケート回答者が4名であることから、半数前後以上が予復習をしていないことになる。その反面、予復習については、③(2.3回)が共に1名、⑤(6回)が、復習1名であり、学習への取り組みが二極分化していることが分かる。折角、外部講師に依頼して出してもらった課題であり、次年度は事前に行っていることを確認できる方策を考えたい。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>5学科の成績(%)を示す。看護:A33.3、B25、D25、E16、7。福祉:A26.9、B23.1、C11.5、D7.7、E23.1、J7.7。栄養:A28.8、B28.6、C14.3、E28.6。英語:A22.2、B22.2、C33.3、D11.1、E11.1、J7.7。観光文化:A19.2、B26.9、C11.5、D19.2、E19.2、J3.8。評価はレポート(60%)とレポート外の提出物とは五人の外部講師の授業についてのコメント5回分(評価40%)とした。前年度までは、レポート100%としており、不合格者が4割出る学科もあったが、今年度はレポートが60%となり、分散された形となり、履修が昨年度よりは容易になったと言える。授業の質評価の5項目の平均を5学科別に%でみる。看護:3.92、福祉:3.12、栄養:2.68、英語:3.54、観光文化:3.42となる。最も低い項目は5学科共に(3)説明は理解しやすいものであったであり、5学科の数値(%)を示すと、看護:3.5、福祉:2.4、栄養:1.8、英語:2.7、観光文化:2.3である。これはどちらかというとし数字である。昨年比でみると、栄養学科では、到達度評価も授業の質評価も全体平均が前年度比では1.1以上下がった。これらの状況からどちらともいえないとした。</p>					
*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

到達度自己評価の10項目の平均を5学科別に%でみる。看護：3.94、福祉：3.07、栄養：2.72、英語：3.63、観光文化：4.5となる。3年前期の選択科目であり、あくまで総合人間科学の科目であるところが肝要と考える。対象ではないDP2（思考判断）、5（技能表現）も、学生からの提出物（コメント、レポート）の評価対象とせざるを得ないところにDPの配置については、やや苦しいところがある。しかしながら、論理的思考や表現技能を3年になるまでにある程度鍛えられていると期待したい時期に配置されている授業であり、カリキュラムマップ上の位置づけは妥当だと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の意見には4名から出た。要約すると、1. 説明をわかりやすく（2名）、2. レポート内容を詳しく説明するように、3. 課題が多すぎ、マイクを学生に共有させることはコロナ対策として意味がない。お答えします。1. 説明を簡潔に、提示する資料を厳選したいと思います。2. 1と矛盾しますが、全体的に2回の質問の期間を設け、授業でPPTを使いながら、説明をし、授業後にはPPTをClassroomで配信しました。更に説明をするとすると、個別指導の可能性があると考えます。3. 課題は二種類でした。外部講師5名へのコメント、最終レポートです。課題が多すぎるという意見は5学科で一名でした。マイクについては、次年度は学生の皆さんに地声で発表していただくか、マイクをその都度消毒するかで対応したいと思います。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

成績はA,Bで57.2%であるが、授業評価では昨年比では到達時自己評価も授業の質評価も1.0以上、下がった。これからすると、総括的評価は満足がいくものではないと考える。5学科の学生に同じ授業をしても、栄養学科の学生の評価には最も厳しいものがある。80名を相手にするのであり、一斉指導が中心にはなるが、オフィスアワー等を活用して、個別の指導をするなどの方策を考える必要がある。成績評価のE（不）とJ（放）で8名いる。登録者の30%を超える学生数であり、この層を少なくする方策も考える必要がある。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。全7回の講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を6団体招聘して、リアル講義の工夫をした。</p> <p>特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。</p> <p>初回講義の時には、この講義で何をやるかということ、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー（内容は休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認）を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させ、次の時間に必ずフィードバックをした。</p> <p>なお、今年度も複数学科合同講義で、多人数かつ少々リアルに欠けるところもあったかもしれないが、学生たちのリアクションペーパーから、また外部講師の先生方の力強いご協力により、十分な教育の提供ができたと思われた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、とにかく楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものと考えられる。</p> <p>講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師（ゲストスピーカー）の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。

地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝わるようにして、講義以外の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。

事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。

講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、今年度は対面にて、シラバス通りに進化した。

次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
高齢者支援学Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、当初九州歯科大学・西日本工業大学との合同で行われたため、口腔衛生やバリアフリーなどの分野も含まれたが、昨年度からは、福祉分野（看護・福祉・栄養）の専門性と特徴を活かしつつ、アクティブシニアが活動的に生活し続けるための支援方法等について学修することを目的としている。</p> <p>授業は、2日間の集中講義で、看護・福祉・栄養学科の合同で行われた。初日は講義、2日目にはグループワーク形式で演習が行われた。</p> <p>昨年度は講義、グループワーク共に遠隔授業で実施したが、今年是对面授業であった。</p> <p>受講動機は、「単位数の確保」との回答が90.0%で最も多かった。「関心のある内容」として興味を示した者は、65.0%であった。集中講義であり、専門分野の異なる他学科の教員による連携講義のため、予復習を効果的に行うことは難しいと推察された。次年度は、看護・福祉・栄養に特化しさらに学生にわかりやすい講義の進め方やレジュメの改善を図りたい。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績の平均値は85±3.6点であった。理想的レベル（概ね80点以上）に達していた。					
*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。	達成度自己評価の平均値は4.4～4.8点、中央値が4.5～5.0点と高かった。「知識の確認・修正・新たな知見」、「コミュニケーションや表現力を高めた」の項目では、達成度自己評価の平均値が4.8と高かった。授業形態がPBL形式であるため、学生が主体となって自発的に課題の問題を提起し、解決方法を検討していくという学習方法であり、3学科協働の作業は、新たな知識の習得、コミュニケーションの取り方など、他学科の学生から学ぶことが多く刺激となっていた。					
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は、学生による授業評価においては、ほぼ全員が新たな知識を得ることができており、また、専門分野において課題を検討する力、的確に判断する力、必要となる技術を身につけることができたとの評価を得ている。成績評価においても、一定の成績を修めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>DP、行動目標からみでの内容的妥当性</p> <p>成績評価から知識、意欲関心に関する達成度は比較的高く、本科目の内容的妥当性は問題はないと思われる。</p> <p>まとめ</p> <p>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価においては、テスト等の評価基準、学習の範囲や課題などについて、平均点は4.3~4.7であった。中央値が4.0~5.0点であった。評価基準や学習課題は明らかであり、また、授業中に学生が参加する機会、学生の質問に答える機会が作られていたと考える。他学科の学生とともに課題の抽出やその改善方法について討議し、発表しなければならなかったため、個々で積極的に学習し、グループワークにそれを活用し、他分野の学科の学生と協働し意見を交換しながら学びを深めていた。そのため、授業の質の評価の平均値は4.3~4.7点と高かった。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>学習到達度の自己評価から、殆どの学生が目標を達成し、新たな知識を得たと回答している。また学びを深めたいとの回答を得た。次年度に向け、これらの評価を維持または向上できるよう、学習教材の内容や授業の進め方を検討する。また、学習量の評価においては、事前事後の学習への取り組み状況が改善できるよう、授業内容や配布資料等について引き続き検討を重ねる。</p> <p>短期集中講義であり、知識を得るための講義時間や情報収集のための時間が短い。そのため、授業の進行方法やグループワークのやり方など、更なる検討が必要であると考ええる。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	阪井 俊文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ライフイベントとキャリア支援	2	前期	選択	はい	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>例年、受講動機としては「単位数の確保」の割合が高くなっており、本科目の内容に強い関心を持って履修している学生が多いとは言い難い。従って、単位の取得という後ろ向きな動機の学生に、本科目を受講することの意義を理解してもらうことが重要な課題と考え講義内容を準備している。アンケートの総合的な結果や講義時に提出してもらっているコメントの内容から、その課題は概ね達成できたと思われる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>本科目は、学生に将来のキャリア形成に役立ててもらえるような知識を提供し、早い時期からキャリアについて考えることを促すことを目的としているが、アンケートの「職業選択の参考になった」などの項目で良好な結果となっているため、概ねその目的は達成できていると考えられる。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

アンケートの結果から、多くの学生が専攻する分野の専門知識よりも、教養や社会人としての知識を習得できたと感じていることが伺えるが、本科目の趣旨を鑑みれば妥当な結果と考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目の位置づけを考えた場合に、予習や復習で学生にあまり多くの負担をかけない方がよいと考えて講義を行っていることもあり、自己学習の時間は少なくなっている。学生の意見から、国試対策など専門分野の課題を優先している学生が多いようであるが、それで問題ないと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は、全学科合同で実施しているが、学科によってキャリアのために学生が求めている知識や情報が異なっていると感じている。どの学科の学生にも、履修したことが有意義であったと感じてもらえるように、今後も内容を工夫していきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	藤和 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生学Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①公衆衛生学は必修科目であり、国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、知識理解と思考判断が重要になる。受講動機を見ると、「必須科目である100%」、「資格取得に必要である」51.9%で、「関心のある内容である」9.3%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。</p> <p>③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p> <p>④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増やした。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>①本試験の成績の平均値は70.9 (±11.8) 点であり、不合格者は2名であった。標準的レベル (概ね70点以上として試験を作成) に達したが、成績の差は大きかった。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は約5点低下した。次年度は成績を理想的レベル (平均点80点) まで上げる工夫が必要である。</p> <p>③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も100%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。</p> <p>④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったため、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。</p>					
<p>*根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生の授業評価アンケートの結果など, できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」, 「学習到達度の自己評価」, 「学習量の評価」, 「学修のための情報利用」, 「図書館, インターネット利用」, 自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断については目標を達成したが、意欲関心、態度に関しやや達成された。しかしながら、理想的レベルまでは達していなかった。管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が4.0で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.3であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.5で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.3であった。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。</p> <p>学生の意見として、「スライドの字が見づらいところがあった」、「声が小さくて分かりづらいところがあった」という意見があり、次年度から改善していきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面で課題は達成できたが、関心意欲の面では課題を残した。今後、公衆衛生学の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。</p> <p>授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかったことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかった。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行っていきたい。</p> <p>講義スライド、配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進捗と内容説明について改善して行きたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	藤和 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康管理概論	3	前期	必修	いいえ	67

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①3年生になって統計学、栄養疫学と公衆衛生学の学習は終了したので、健康管理概論の講義は今までの勉強のまとめとして学習するよう指導し、管理栄養士国家資格取得するための意識を高め、できるだけ具体的な演習問題を解くようにしている。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。</p> <p>③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。具体的にはスライドの見やすさ、講義内容の論理性などについて修正した。</p> <p>④受講動機を見ると、「必須科目である88.5%、「資格取得に必要である」53.8%で、「関心のある内容である」11.5%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。授業中の学生たちの勉強意欲を高めるため、授業中の質問や討論を増やしたい。</p> <p>⑤授業内容がはっきり聞き取れるよう言葉はゆっくり話すようこころかけた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①本試験の成績の平均値は73.0(±8.6)点であり、不合格者は3人だった。標準的レベル（概ね70点以上として試験を作成）に達した。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は低いレベルである。今年度は対面授業で、対面試験で評価した。</p> <p>③学生による授業評価においては、「自分なりの目標を達成した」と回答した者は100%であったが、「一回30分程度の予習・復習をしたか」という質問に対し、0回と回答した者は多かった。次年度は予習・復習の重要性を初回の授業のオリエンテーションで説明する必要があると認識した。</p> <p>④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったため、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。</p> <p>②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断に関する達成度が比較的好かった。今年度は遠隔授業であったが、対面試験で評価した。内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.9で、「授業中に自分の意見をまとめる・話し合う・発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.5であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.5で、授業の内容はよかったが、予習・復習の時間が想定より少なかったことが反省点である。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、予習・復習をしっかりと、授業に参加するよう促していきたい。</p> <p>学生の意見として、授業の進めるスピードが速く、聞き取りにくいところがあったという意見があり、次年度からは改善して行きたい。</p>
---	--

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総合的評価と課題をお示しください。</p>	<p>専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断の面で課題は達成できたが、意欲関心の面では課題を残した。今後、予習・復習の重要性をしっかりと説明し、学生の成績の向上を目指していきたい。</p> <p>授業過程を振り返ってみたとき、毎回授業中、質疑応答の時間を設けたことで学生の思考判断を高めることができた。しかし、意欲関心についてはさらなる工夫が必要である。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間をとり、復習課題を提示して、学生の意欲関心をあげる努力をしていきたい。</p> <p>説明内容に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて改善して行きたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康情報処理論	2	前期	必修	いいえ	59

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>従来通り、2年次になり、実習・実験の授業が多く、他科目のレポート課題が多いこともあり、思考することを重視し、90分の時間内で完結できるような内容にし、教えない授業を心がけている。</p> <p>今回も、「他の科目の課題を優先した。忙しく時間がなかった。」との記述が多く見られた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>AクラスはA：13.3%、B：16.7%、C：30.0%、D：23.3%、E：6.7%、BクラスはA：6.9%、B：24.1%、C：31.0%、D：27.6%、E：10.3%であった。</p> <p>授業評価の折に、以下の行動目標について、出来る、何とか出来る、出来ないの3段階で自己評価して貰ったところ、出来ないと解答した割合は、（1）0%(4%)、（2）4%(8%)、（3）2%(8%)、（4）13%(11%)であり、昨年より低下している。</p> <p>(1) 適切な健康情報を検索・収集できる。 (2) 収集した健康情報について信頼できる情報か否か判断できる。 (3) 収集した健康情報を適正に処理し、問題解決、意思決定に活用できる。 (4) 健康情報を解釈する上で必要な基本的な統計処理を理解できる。</p> <p>一方、出来ると回答した割合は、（1）43%(39%)、（2）17%(17%)、（3）23%(17%)、（4）17%(11%)と増加している。</p> <p>昨年に比べて、授業で扱う問題数を減らし、各自の問題を解く時間を長くしたことで出来ると回答した学生が増えたと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性

本科目は「専門基礎分野」であるが、幅広い教養を身に付けるという点においては、今回、人工知能、データサイエンスの基本知識となる統計学の知識の内、記述統計学に割く時間を多くしたこともあり、内容的に妥当であると考えます。

②DP, 行動目標からみての内容的妥当性

出来ると回答した割合から、内容的に妥当であると考えます。

③まとめ

以上から、「知識・理解」においても「思考・判断」においても、学生の学力に見合った授業内容であると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生が発言する機会を設けたところ、積極的に発言できており、「授業の質の評価」においても「そうだと思う」と回答した学生の割合は96%であり、授業の進め方においては問題はないと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

特段なし

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
解剖生理学	1	前期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教科書の図を順序通りに説明を行うことにより、学生がメモを取る時間を極力軽減し、説明を聞く時間を多くとり講義時間内に理解してもらえるように取り組んだ。説明文は、教科書と同じ文章を用い、教科書に印をつけるだけでキーワードを含んだ文章を探し出せるよう講義スライドに記入した。</p> <p>②講義資料は、講義開始前に紙媒体で配布した。</p> <p>③管理栄養士国家試験において得点率が低い分野であること、また調理や栄養に直接的な関連がわかりづらい分野であり且つ初年次前期での履修となるので、興味を持ってもらえるよう身近な病気・病態や生理現象をできるだけ多く提示した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①今年度の結果</p> <p>本試験の合格者は37名中35名で、追試験の合格者は2名中2名であった。本試験の平均点は76.3±6.64点であり、標準的なレベル（概ね70点以上）に到達していると考えられる。加えて、理想的なレベル（概ね80点以上）が11名であった。上位と下位の取り組み方に大きな差があり、学力の差を点数以上に感じた。次年度は、講義資料を前もって配布し、進みそうな範囲を前もって予習してきてもらうことのみならず、復習してもらえるよう工夫を凝らすことなどを考えている。</p> <p>②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」及び「授業の質」において、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な評価が90%以上である項目が多いが、「コミュニケーションや表現力」、「職業倫理や行動規範」、「学生が参加する機会」などについては、「少しそうでないと思う」以下が多い項目で40%程度ある。専門基礎科目であることから、知識の習得に重きを置きがちではあるが、このような機会を講義の中で作っていくことを次年度の課題とする。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性
本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。調理や栄養と直接的な関連性が分かりづらい科目ではあるが、学生も一定の成績を収めていることから、内容は妥当であったと考えられる。

②DP、行動目標から見ての内容の妥当性
成績評価と学習到達度についての学生の自己評価からみて、目標を標準的なレベルでほぼ達成できたこと、加えて定期試験問題は管理栄養士国家試験の問題に準じて作成したので、内容的には妥当であったと考えられる。

③まとめ
以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が2.4と低かった。身近な生理現象や、病気などを例に挙げて問題提起をするよう心掛けてはいたが、学生同士で議論しまとめ、発表するという時間をとることができなかったところが反省点である。予習・復習や自発学習を行っていない割合が多いのも反省点である。次年度に向けて、配布資料を前もって配ることにより、予習を促し、途中で小テストを入れるなどして、復習する動機づけを検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考える。講義時間中の質疑応答は、比較的自由に行えるようにしていたが、講義内容や講義時間中の質問は一切なかった。加えて、学生同士でじっくり時間を取って検討し、発表する時間がなかった。今後、毎回の講義のねらいを具体的に示し、グループごとに討論する時間を設けたり、その内容を発表してもらおうなど、学生がもっと参加する意欲が持てるよう努力していきたい。
配布物や講義の進行については、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に向けて改善を行いたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生化学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本講義は、科目の本質上、特に論理的思考を促すことに重点を置いて進めている。一年時の選択科目である「生活の中の化学」、および一年時の必須科目である「生化学Ⅰ」で講義した知識・理論と運動性をもたせるように心掛けています。今回の受講動機は、「必修科目である」83.3%、「資格取得に必要である」57.1%の2つに集中しており、一方、「関心のある内容である」は、低く、7.1%であった。本年度は対面方式で15回講義を行った。学生は真面目に授業に取り組んでいるように見受けられた。栄養学と生化学はその起源が同一という見方もあり、かつ国家試験受験資格取得に必須の科目でもある。好むと好まざるにかかわらず、栄養学を学ぶことを決意した以上は、生化学に正面から取り組むべきであることを第一回目の講義で説明した。また、生化学が生理学や基礎栄養学をはじめとするいくつもの科目と連関していることを折に触れ強調しつつ講義を進めた。</p> <p>②毎年、キーポイントやキーワードをまとめた資料を作成・改訂し、配布している。講義の前後、あるいは試験前に目を通したうえで、学習に取り組むことを勧めている。</p> <p>③講義に用いるスライドは、前年のものに改訂を加えて用いた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	どちらともいえない		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講者数は、再履修を含め58名であった。最終成績の平均は57点であった。合格者中、優（80点台）が2名、秀（90点以上）が5名うち100点1名であった。一方、不合格者は24名であった。本年度の講義は15回すべて対面方式で行った。学生の受講態度は概ね良かったにも関わらず教育効果が低かった。授業の質評価では「説明は理解しやすいものであった」の平均評点が2.9と低かった。もっとわかりやすい講義にする工夫が必要であろう。一方、本試験が30点未満の低得点であった学生の割合が多かったことは、学生の側にも勉強せずに試験に臨んだ者が多かった事を示唆していると考えられる。特に毎年必ず出題している構造式を書かせる問題を白紙解答した学生が多かった。もしかしたら、本試験を捨てて再試験に賭けた学生が多かったのかもしれない。今年は本試験の問題を回収して、再試験でも同一の問題を出題したにも関わらず、再試験の点数が本試験の点数を下回った学生が多かった理由は謎であるが、不可思議な現象ではある。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPでの位置づけは、専門基礎科目であり、国家試験受験資格取得必修である。合格率は低いものの、平均点、高得点者の数から考え合わせて、内容的には妥当と考える。

②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、および意欲関心を問う科目である。試験での知識理解、思考判断を問う問題の正解率から考えると、前二者に関しては、低調な内容であったと考える。やや高度な思考力をようする問題は、意欲や関心を持って普段から学習に取り組む必要がある。本年度の受講生、特に2年生は、受講態度が例年に比べて悪い、あるいは意欲が感じられないということはなかった。それにも関わらず、予想に反して例年より得点率が低かった。今後、学生により論理的思考を積極的、意欲的に行うことを特に指導していきたい。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が2.9であり、他の項目より低かった。説明の仕方、講義資料やスライドの図表や文章は、よりわかりやすくなるように毎年見直しと改訂を加えているが、さらなる精査に取り組むことにする。特に重要な基礎知識、論理については、次年度から今まで以上に繰り返し説明するよう、心掛けたい。次年度に向けては、思考判断の重要性をより具体的に示した上で、授業に参加するよう促していきたい。また、本試験前に勉強することを促すように心掛けるようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本年度の学生の受講態度は、全体としては、評価に値するものであった。本年度の平均点その他が昨年よりも低かった理由はわからない。学生の意欲は高かった印象を受けた割には実力をつけていないのは、是非とも改善していくべき点であると考え。本年度は講義中や講義後にわからないところを質問して、解決しようとする学生が昨年同様比較的多かった。80点以上得点した学生数が少ない一方、その中での90点以上の学生の割合が多いことと相関があるのかもしれないが、熱心に質問に来た学生を記録していないので想像の域を出ない。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	高崎 智子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
疾病診断治療学Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①管理栄養士にとって医学的知識は不可欠であるが、まだ2年生であることから、医学的検査や疾病に対しての具体的な興味は持ち得ていないと考えられる。入学後初めての医学各論であるため、検査機器や疾病の写真を多用したり、学生が経験したことのある病気や症状と関連付けたりして、疾病に対してのイメージを持ちやすくすることに重点をおいて授業を進めた。</p> <p>②スライド資料を準備し配布した。</p> <p>③スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにした。授業中に質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。</p> <p>④学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施した。学生にとって授業での重要ポイントを理解することができるとともに、教える側にとっても、学生の理解度を確認し、それに対処した授業内容を計画できるようフィードバックすることに努めた。</p> <p>⑤毎回の授業の始めには、前回授業の確認テストにて理解度の低かった箇所を中心に再度解説し、知識の定着を図った。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>授業中に指名して質問する機会を持つことで意欲関心を評価した。</p> <p>学生の授業評価アンケートでは、学習到達度の自己評価において全員が「自分なりの目標を達成した」と回答していた。また学習到達度自己評価は、10項目中8項目の平均値が4.0点以上であり、授業は概ね理解しやすいものであったと考える。「新たな知識の修得」「的確な判断力の修得」において特に自己評価が高く(4.2点)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「課題を検討する力を得ることができた」「学びを深めたいと意欲を持つことができた」と考えている学生も多い(4.1点)ことがわかり、主体的に学修に取り組む姿勢を促すことができたと考える。</p> <p>本試験の成績の平均値は 81.8 (±9.3)点であり、再試験対象者は58名中2名であった。ほとんどの学生は標準的なレベル以上に達したと考える。</p>					
*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される分野であり、また管理栄養士として就業するにあたってはコメディカルとしての医学的知識を必要とすることを学生も理解している。学生による授業評価において、全員が自分なりの目標をある程度達成したと考えており、定期試験においても一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えている。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 管理栄養士国家試験に出題される領域のみならず、就職後に医療の現場において必要とされる知識を想定して授業内容を構成した。全員が、「新たな知識を得ることができた」「専門分野の課題を検討する力を得ることができた」と肯定的に自己評価しており、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題は無いと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価は、5項目中3項目が平均値4.3点であり、授業の説明については、全員が「理解しやすいものであった」と答えていた。そのうち「かなり理解しやすいものであった」と答えた学生は50%に上っており、昨年度（38%）と比べて大幅に改善することができた。毎回の授業の最後に確認テストを行い、加えて次の授業の初めにも前回授業の復習を組み込んだことで、学生が理解できていない事項を早めに認識して対処することができた。確認テスト等を通して重要事項をくり返し理解させることは、知識の定着につながったものと考えている。なお自由記述より、他教科の課題が多いため授業外学習時間を確保することが難しいことがわかった。確認テストを行ったことで重要ポイントをつかみやすくなり、授業時間内に知識を定着したり、授業ノートを作って復習したりしやすくなったことが伺える。全員が、配布したスライド資料やノートを授業の記録に利用しており、57%の学生は授業の復習をくり返したと答えている。さらにほぼ全員が学びを深めたいと意欲を持つことができたと考えている点も評価できる。重要ポイントをわかりやすく提示したり、事例を取り上げて検討したりしたことで、授業に対するモチベーションを高め、意欲関心を深めることにつながったのではないかと考える。授業の中で発表する機会が少なかったと感じている学生がおり、限られた授業時間内で、質疑応答形式の機会を増やしていくことは今後の課題である。以上のことより、双方向性の授業参加を促す工夫を検討するなどの課題はあるものの、授業の質を向上させることはできたと考える。</p> <p>なおインターネットを利用したと答えた学生は31%（昨年度23%）であった。知識を得たり学びを深めたいとの意欲を持つ学生が増えた結果であろうと考える。積極的に利用して学びを深めるよう促すとともに、あふれる情報の中から出典の確かな正しい情報を選ぶ方法についても指導していきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目は専門基礎科目であり、後期の疾病診断治療学Ⅱにつながる科目として、管理栄養士に求められる医学的な基礎知識を修得することを目指した。修得すべき知識は医学、生物学、化学など質・量ともに広いため、個々の学生の理解度はさまざまである。確認テスト等を行うことで、学生が理解できていない事項に早めに対処したり、授業の中で事例を取り上げて検討したりして、学生が積極的に自己学習に取り組み、意欲関心を深めることにつながった。成績評価および学習到達度の自己評価より、教育目標は概ね達成できたと考える。課題を課される授業が多いため授業外学習時間を十分に確保することが難しい状況においても、一定数の学生は予習・復習や課題以外の学習に積極的に取り組んでおり、またほぼ全員が学びを深めたいと意欲を持つことができたと考えている点は評価できる。今後は、授業内容を整理することで質疑応答形式の機会を増やしたり、事例を取り上げて検討したりする時間を増やすなど、さらに学生の意欲関心を高め、興味を持って自己学習に取り組むような方策を検討していきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①当該科目は必修科目であり、また、管理栄養士国家試験の際に学生が苦手とする基礎系の科目の一つである。食品ごとの成分の特徴、機能性、加工上での特性など情報量が多いので、国家試験の出題傾向等を提示しながら、ポイントをまとめた講義にするよう心掛けた。</p> <p>②学生の受講動機は「必須科目である」92.7%となっており、管理栄養士国家試験を念頭に置いた取り組みは非常に重要であると思われる。</p> <p>③各種食品がもつ特性を学ぶ教科であるため、非常に範囲が広い。昨年度同様に、学生自身が重要事項を把握しやすいように要点をまとめるプリントを作成し、授業内で各自でまとめるよう指示した。また、今年度より、各章ごとの振り返りとして翌週に小テストを実施した。小テストの実施によって復習する時間をもつこと、重要な点の再確認することを徹底させた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>◎成績評価 成績平均値は61.1点であり、約50%が標準レベルに達し、そのうち理想的レベルに達したものは8名であった。再試験対象者は28名中、10名が再履修対象となった。この再履修10名中、再試験不合格者は5名、再試験未受験が5名であった。最終的な成績評価（再試験終了後）でみると、8割以上が標準レベルには達していたが、例年にない再履修者数となった。</p> <p>◎授業アンケート 学習到達度の自己評価では、「知識の確認、新たに得ることができた」の項目では、平均値が4.3と昨年度よりも上昇していた。また、学習量の評価において、事前事後学習が0回の学生が昨年度よりも減少しており、今年度から小テストの実施を取り入れたことによって復習時間の確保はできていた。しかしながら、「知識の定着」にはつながっていないものとする。</p> <p>国家試験に関連している科目であり情報量も非常に多いため、事後学習が特に大切である。来年度も小テストを取り入れて事後学習の重要性をさらに定着させたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性
本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。食品に関する、成分特性、機能性、加工特性など、管理栄養士・栄養士として食品の基礎的知識を修得することは必須である。学生も一定の成績を収めていることから、内容的にも妥当であったと考える。

② DPからみた内容の妥当性
最終成績評価から80%以上が標準レベルに達しており、基礎的な教養が身につけていると判断されるため、内容的にも妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価においては、ほとんどの項目において4.0～4.4であり、学生からの評価も概ね得られていると思われる。「自分の意見をまとめる、発表するなどの機会がもうけられている」の項目では3.6となっており、そのような機会を取り入れるよう検討する。また、科目の特性上、講義内容は広範囲に及ぶため復習や試験勉強の際に、重要な点がわかりづらいのではないかと感じた。次年度は、「講義初めに理解すべき点（目標）の提示」、「授業最後にその日のふりかえりをする時間を設ける」ことを導入したいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

「専門基礎科目」に位置づけされている科目であり、「食品」に関する幅広い知識の習得に繋がる教科である。82%が標準的なレベルに達していたが、理想的レベルに達した学生数や平均点は、昨年度と比較すると低下していた。小テストの導入によって、授業後の復習を行う学生は前年度より増えていたが、平均点の低下や再履修者の増加によって、知識の定着にはつながっていないことがわかった。科目の特性上、講義内容は広範囲に及ぶため復習や試験勉強の際に、重要な点がわかりづらいことが考えられる。次年度は、「講義初めに理解すべき点（目標）の提示」、「授業最後にその日のふりかえりをする時間を設ける」ことを導入したいと考える。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
調理学	1	前期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①授業の始まりに、今日の講義内容について「今日のポイント」を説明し、それから授業を始めた。</p> <p>②1枚のスライドの文字を大きく見やすくし、説明がわかりやすいようにした（印刷物も同様）</p> <p>③受講動機は必修科目であり、資格取得に必要な科目であるため、具体例をあげ、関心を持つように心がけた。</p> <p>④章ごとに、国試に出た実際の問題を提示し、出題内容や出題傾向を説明し、覚えるポイントとした。</p> <p>⑤栄養士認定試験やフードスペシャリスト認定試験に出題される調理学の問題を毎回提示し、レポート課題と共に学習し、解答させた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		どちらともいえない	どちらともいえない		やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の評価点は69.7±10.3点、再試5名であった。90点以上が2.9%、80点以上が11.4%であり、70点以上が40%、60点以上が34.2%であった。</p> <p>到達度自己評価の平均値と中央値は (1) 目標の達成：4.1、4.0、(2) 知識の確認修正：4.5、5.0、(3) 事象を理解する考え方：4.3、5.0、(4) 課題検討力：4.3、4.0、</p> <p>(5) 的確な判断：4.4、5.0 (6) 学習意欲：4.5、5.0であった。昨年度までは80点以上が半数を超えていたが、今年は成績不良が目立つ。学習意欲の向上や知識の習得、的確な判断などが習得できたと考えられるが、筆記試験の結果より、学習した内容を試験で解答まで導く、応用力が低下していた。</p> <p>授業の質の評価の (3) 説明は理解しやすいものであったでは平均点4.5、中央値5.0で平均並みと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。授業評価の結果より、目標の達成や知識の習得などが行われているため、学生自身の達成感が見込められる。上学年への専門知識の習得に向け、専門の基礎固めとして、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、自己啓発や研鑽しようとする態度は受け身であると思われた。もっと自発的に行動させるため、「自分の意見をまとめる」、「話し合う」などの時間を取り、発表させるなどの参加型授業を組み込んでいきたい。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>毎回レポートを作成提出させることで、復習及び学習効果が見られたと考えられるが、応用力低下を補うため、授業の終了前に小テストなどを取り入れ、問題になれる必要がある。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため、基礎的知識の形成については概ね達成できた。毎回の授業の復習レポートと共に、国試関連の問題を解き、調理理論及び調理科学の理解を促し、学習効果を高めたと考えられる。 しかしながら、定期試験での結果が不良であったため、授業内容がどのような形式の問題として提示され、解答を導くかまでの一連を授業内に盛り込み、また、授業終了前的小テストの実施等が必要であると考えられる。また、この科目は1年次に習得するため、国試対策を行う4年次の時点では、学習内容が非常に希薄になっている。そのため、繰り返し学習させることが重要である。後期行われる対面授業（応用調理学実習）では、実技の習得と共に、調理理論の復習も兼ねて、学習効果を高めていくことが課題と言える。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
フードスペシャリスト論	1	前期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①資格取得を目的とする教科であるため、テキストに沿った内容を中心に授業計画を立てた。当該科目は、「食」に関する歴史、文化、流通など多岐に渡ることから、授業の中で、重要な点ならびに資格試験への出題率が高い箇所を学生自身がまとめられるためにプリントを作成し、スライドを利用して授業を進めた。</p> <p>②学生の受講動機は、「資格取得に必要である」81.8%、「関心のある内容である」45.5%、「単位数を確保する」36.4%となっており、例年に比べ資格取得に対する意欲や関心が高いことから、資格試験に向けての取り組みは重要であると思われる。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>◎成績評価</p> <p>最終的な成績の平均値は76点であり、再試対象者は4名であった。88%が標準レベルに達し、そのうち理想的レベルに達したもの（80点以上）は16名（14%）であった。</p> <p>◎授業アンケート結果</p> <p>学習達成度の自己評価の「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目では、平均値4.4、「的確に判断する力、学びを深めたい意欲」では平均点4.2、「学びを深めたい意欲」では、平均点4.3であった。</p> <p>これらの成績評価ならびにアンケート結果から、知識理解においては、おおむね達成されたと考えられる。</p> <p>学習量の評価において、「30分以上の復習」を行ったと答えた学生は30名/33名であった。知識の定着や理解度の確認のためには重要であり、3年次で受験する資格試験合格にもつながってくるため、今後も促していきたい</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性
本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。「食」に関する歴史、文化、食品産業の仕組み、食に関する法律、食糧事情まで幅広い教養を身に着けられる科目であり、学生も一定の成績を収めている。また、受講動機で最も多かった「資格取得のため」の観点からみても、資格取得のためには最も基礎的かつ必要な知識であることから、内容的にも妥当であったと考える。

② DPからみた内容の妥当性
成績評価から97%が標準レベルに達しており、基礎的な教養が身につけていると判断されるため、内容的にも妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

1年生前期の授業ということもありゆっくりとしたペースで授業を行うことを心がけた。また、1年生では理解が難しい項目においては補足資料を追加して授業を進めた。授業アンケートを見てみると、「説明もわかりやすい」の項目は4.4であり、「わかりやすかった」とのコメントが見られたため、その点についてはカバーできていたと考える。例年、各章ごとに「資格試験問題を解く-解説する」ことを行っていたが、今年度は、授業の翌週に資格試験に出題されやすい箇所を重点的に問題を作成し小テストの実施へ変更した。小テストの実施という事で、それに向けての勉強や授業の復習を行ったというコメントが多数みられた。食に関する文化や歴史、環境問題など、講義内容は多岐に渡るため、授業後の自学する時間の確保に効果が出ていると感じた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

資格試験取得を目的とした科目であるため、単位修得だけではなく資格試験対策も視野に入れて授業を計画し進めた。成績は88%が標準レベルに達しおおむね達成できた。また、課題以外の学習では、プリントの見直しなどのコメントが多数みられた。来年度も事後学習を取り組んでもらうよう促していきたい。資格試験の対策を視野に入れて授業を計画しているので、どうしても教員側からの一方向の講義になってしまっている。1年生前期の授業なので難しい面もあるが、学生が発言することを組み込んだ授業計画を来年度に向けて考えたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
フードコーディネータ論	3	前期	選択	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①この科目はフードスペシャリスト認定試験受験資格として必要な必修科目である。そのため「専門教育科目」、「専門基礎分野」の選択科目である。必要科目12科目のうち、この科目を含む2科目のみ3年前期で開講され、その他の科目は2年生までに履修済みである。認定試験は3年後期に実施されるため、個人の計画的な自己学習が問われる。</p> <p>②今回の受講動機は「資格取得に必要である」が82.6%で資格取得希望者が多いと見受けられた。また、「関心のある内容である」39.1%に対し、「単位数を確保する」が21.7%と多く、資格取得のための受講者でない割合が近年増加している傾向である。</p> <p>③出題範囲の講義を行い、その後、過去問を配布し、繰り返し学習するよう促した。また、2年生までにすでに履修した科目の復習をすすめ、認定試験の概要について説明し、学習意欲を促すよう努めた。</p> <p>④過去問や専門問題などの印刷物を配布し、毎回授業の復習レポートと過去問の解答を課題として提出してもらった。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の自己評価到達度の平均と中央値は、「知識を確認、新たに知ることができた」が4.0、4.0点と高く、認定試験合格に寄与していると考えられる。また、成績平均値は79.5±9.1点であった。理想レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達していたのは48名中26名(54%)であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性

本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」の選択科目で、フードスペシャリスト認定試験受験資格として必要な必修科目である。授業準備の欄で指摘したように受験に必要な科目12科目のうち、10科目は2年生までに履修済みで、本科目を含む2科目のみ3年前期に開講される。そのため、12月に試験が実施されるまでの動機付けに苦慮する面がある。

②DP, 行動目標からみての内容的妥当性

過去問をよく学習しており、問題内容もよく熟知され、問題数も少ないため成績が非常に良かった。

③まとめ

以上から、認定試験用の受験科目の1科目としては内容的妥当性に問題はないと思われる。た

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

認定試験受験科目のため、講義の内容として、過去問出題率の高い項目に関して特に重点を置いて学生に周知させたい。

一昨年は、定期試験の日程が他の科目と重なり、学習や試験対策にあてる時間不足であったように聞いている。そのため、日ごろからしっかりと復習を行い問題に慣れ、解答できるようにと促した。

選択科目であるフードコーディネータ論は出題内容や出題傾向が過去問等で開示されており、また、認定試験の12科目の1科目にすぎないため、過去問を繰り返し学習する必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

講義後復習のためのレポートの提出を実施した。また、その回にかかわる過去問を提供し、あわせて課題として提出させた。この科目は、選択科目であり、任意の検定試験であるため受験の有無によって学習意欲に差が認められた。資格取得のために受講する者と単位数の確保のためだけに受講する者との学習意欲の差が顕著であった。

学習のレベルを資格取得希望者を基準におき、過去の出題数が多い内容に重点を絞り、また、講義内容が単調にならず、飽きさせないようスライド等の工夫を行う。さらに、複数回の小テストの実施により、問題に慣れされることが合格レベルまで学習能力を引き上げる要因であると考えられる。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
人体の構造と機能基礎実習	1	前期	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①人体の構造と機能に関する基礎的な理解を得るため、栄養学の分野で頻出する化学物質の構造、消化・吸収の仕組みと、ホルモンによる腎機能調節に焦点を当て、性硬く及び生理学の手法を用いた実習を行った。</p> <p>②正常な生命活動の仕組みについての基礎的理解を深めるため、生命維持に不可欠な諸器官の構造と機能について、身体活動などと組み合わせる可能な限り身近な題材を用いて実習を行うようにした。</p> <p>③実習レポートは実習終了後一週間以内に提出をさせ、提出後1週間以内にコメントを付して返却した。実習内容を忘れないうちにまとめることと、早い段階でのレポート返却により、学生がコメントを確認することで復習の機会が自然とできることを意図した。</p>
---	---

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価にて「コミュニケーション力や表現を高めることができた」について「少しそうでないと思う」以下の回答が10%あったが、そのほかの項目に関して「まあまあそうだと思う」という肯定的な意見が90%以上を占めている。</p> <p>加えて、レポートは総じて大変良くできており、積極的に取り組んだ跡がうかがえた。</p> <p>図書館等の利用が非常に少ないが、実習時間中にスマートフォンなどを用いてインターネットを利用した情報検索を許可しているため、このような結果になったと思われる。</p> <p>以上のことから、この科目で意図した教育目標はほぼ達成できたと考えられ、授業態度、レポート提出状況からも、この科目に多くの学生が主体的にかかわったことがうかがわれる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の「専門基礎分野」になり、選択科目である。実習で行った内容は講義で学習したメカニズムを実際の自分たちの体で体験するという知識定着の役割も担っている。そのため、管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。また、学生の成績も非常に良かったことから内容は妥当であったと考えられる。</p> <p>②DP、行動目標から見ての内容妥当性 「到達度自己評価」及び、実習の成績からみても学生は進んで熱心に取り組んでいたと評価したことから、目標をほぼ達成でき、内容は妥当であったと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容的妥当性に問題は無いと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価においてすべての項目において「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な回答が90%以上を占めているので、概ね学生が肯定的な判断を下しており問題はなかったと判断でき、知識の定着ができたと考えている。 図書館にて本で調べることがほとんどできていないことについても、実習中にインターネットを活用して調べることを行っているため、大きな問題は無いと考えている。まずは教科書を読むことを習慣づけることから注意を促していきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考えている。 この科目は①糖質、アミノ酸、脂肪酸の基本構造を・定義を説明し、分子模型を組み立てることができ、栄養素の消化について説明できること、②人体を構成する主な骨と筋肉の名称を覚えること、③泌尿器、血液、循環器、呼吸器、感覚器などの実習を通して、生命体を構成するそれぞれの臓器の基本的な構造、働きについて説明できるようになること、④実験結果のまとめ、グラフ化、考察事項についての調査を通して、科学レポートの書き方を身につけることを目標に行ってきた。最終的な到達目標は、①～④を初学者に説明できるようになるという点に置いた。学生による授業評価とレポートの採点結果から見て、これらの到達目標は、ほぼ達成されたものと判断できる。 今後の課題としては、インターネットを用いて調べる際に、正しい情報を選び取る力を身につけてもらえるような工夫をしていきたいと考えている。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生化学実習	2	前期	必修	いいえ	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①実験を中心とした実習科目であることから、本科目は元来、事実や結果を客観的かつ正確に観察し、その上で論理的に解析、考察に取り組むことに重点を置いている。講義科目である生化学ⅠおよびⅡで講義した内容との連動性を重視している。座学で得た知識や論理をいかに実践の場で、活用しさらに発展させる力を養うことがを目標とする授業である。本年度は15回すべてを対面方式で行うことができた。今回の受講動機は、「必修科目である」94.9%、「資格取得に必要なものである」53.8%の2つに集中しており、一方、「関心のある内容である」は10.3%であった。この結果は、例年通りである。</p> <p>②例年用いている私が作成した実習書に、石井助手の意見も参考に必要な変更や改訂を加えて配布した。遠隔方式の場合、実験はすべて私が実演ビデオを撮り、Meetで配信して学生に見てもらった。分子模型を用いた実習は、各学生にあらかじめ郵送しておいた分子模型を用い、Meetの画面を通して学生に実際に模型組み立てをしてもらい、質問や議論をなんとか行うことができた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された	

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終成績の平均は67点、不合格者は受講放棄者2名であった。うち、優（80点以上）の成績を修めた学生は、わずか2名であった（昨年度4名）。本科目の成績評価は、レポート60%、授業への取り組み40%で行っている。レポートでの評価内容の内訳は、知識理解20%、思考判断35%、関心意欲5%、一方、授業への取り組みでの評価内容の内訳は、知識理解10%、思考判断25%、関心意欲5%である。実験中に観察された事実、あるいは実験から得られたデータを客観的かつ正確に把握し、それらを論理的に解析することにより結果を導き出す、あるいは疑問点についても論理的考察を加えることを学生に要求し、それらの点を評価した。ほとんどの学生が実習にまじめに取り組んでいたこと、またその中のかかなりの割合の学生が積極性や意欲も見せていたことが、実習への取り組みに対する比較的高い評価に結びついた。その一方、高得点者が少ないのは、客観性、正確性、および論理性がレポートに表れておらず、多くの学生のレポート評価が低いためであると判断される。座学に比べて実習の成績が低いのは、教科書的な丸暗記等はまじめにこなすが、予想しない結果がもたらされることが多い実験において、得られた事実を論理的に分析する力あるいは意欲が低いためと考えられる。レポートの評価が低いもう一つの明らかな要因は、文章の稚拙さ、不正確さ、および用いた記号や語句の定義がなされていないなど、国語力に根ざしたものである。また、不自然に似通った文章や論理展開を含むレポートが複数見られたことも低評価の要因である。</p>
--	---

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPでの位置づけは、専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。平均点や合格率だけを見ると、内容的には妥当と考えられるが、学生が考える力をつけるという数字には表れにくい点について、これからも引き続き改善を目指していきたい。

②DPでの位置づけは、知識理解、および思考判断を問う科目である。前者に関しては、おおむね妥当な内容であったと考える。思考判断に関しては、今後の課題となる。

全体としては、おおむね妥当な内容であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.2で、本年度も一番低かった。説明の仕方、実習書の図表や文章は、よりわかりやすくするように毎年見直しと改訂を加えているが、さらなる精査に取り組むことにする。特に重要な基礎知識、論理については、次年度から今まで以上に繰り返し説明するよう、心掛けたい。また実習書にも改善を加えたい。特に図表はより見やすいものにできないか検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本年度の合格率、平均点とも例年と同レベルであった。座学の成績から考えるともっと好成績を期待したい。学生に実践の場で考える習慣、力をつけさせる工夫を模索していきたい。次年度は、本科目が生化学の講義内容と連動していることをさらに強調し、学生の意欲促進を目指す。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	長谷 静香

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品栄養実習	2	前期	必修	いいえ	57

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>なるべくわかりやすい説明を心がけるとともに、座学で習得した基礎知識が定着するように、実際の実習では座学の内容とリンクする説明を加えながら進めた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>「到達度自己評価」の解答のほとんどが4および5であった。「学習量の評価」については、30分以上の準備・復習の機会が多くない結果となったが、これは毎回の座学および実習において授業の現場で要点をまとめることを課題としたため当然の結果である。課題提出について若干提出遅れがあったものの受講者全員が全回すべての課題を提出し、かつ全員が最後の確認小テストを受験した。よって成績の総合評価は80点台と高かった。以上のことから、概ね目標達成は高いものと判断される。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

「到達度自己評価」の解答のほとんどが4および5であった。よって本実習において、食品加工における化学的变化について、座学で基礎知識を得た後に実際に実習にて食品加工・製造を行うことで、管理栄養士として必須のスキルを修得できたものと判断する。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の質の評価」の解答のほとんどが4および5であった。また、分かりやすく楽しかった、実習で作成した加工食品をもう一度自宅でも作成して復習した、といった記述が多く見られ、授業の進め方には概ね問題ないと判断される。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

以上のことから総括的評価は高いと判断される。課題としては、非常勤講師のため他の科目と連携を取り関連付けて授業を展開することが出来なかった点、本実習が管理栄養士取得（試験合格率）の向上に寄与するまでに至ったかが判断できかねる点が挙げられる。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	木村 宏和

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品衛生学実験	3	前期	必修	はい	67

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>授業の実施において、食品衛生に関わる化学分析実験、微生物学実験に関心を持ってもらうことに重きをおきました。そのために、実験内容についても、身近な食品（ソーセージや寒天）や調理器具類（使用済みスポンジ、まな板、包丁）を使って、食品添加物の検出・同定や定量、殺菌効果の比較（水道水、陰イオン界面活性、陽イオン界面活性材、次亜塩素酸、熱水）の実験を計画しました。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された			やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績（成績Aの学生が受講者数の3分の一存在）、学生の授業評価アンケートの「到達度自己評価」が概ね達成できている、授業でのインターネット検索の利用学生数が受講者数の半数以上、自己記述でのレポート課題への取り組みなどが根拠になります。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP、CP、カリキュラムマップ上における食品衛生学実験の位置づけについては、「学習到達度の自己評価」の到達度などから妥当ではないかと思いません。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今回の授業の進め方について、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、学生からの意見（学習に取り組んでいない理由）等から判断して、以下について改善していきたいと思えます。
レポートの課題について、質問の時間を確保する（毎回の学生実験終了後または、学生実験以外の時間を別途設ける）。
【学生からの意見について】
・ レポートの返却期間が長くなり、やり直しの期間が短くなって大変申し訳なかったです。今後は、提出レポートの返却をタイムリーに行っていききたいと思えます。
・ ホワイトボードの字が見えにくい、話すスピードが速い、説明がわかりにくいとの意見が出ております。ホワイトボードの字は大きめに、そして、話すスピードは限界がありますが（時間内で実験を終わる必要があります）、ゆっくりと丁寧に話していきたいと思えます。一方で、受講学生の皆様も、学生実験の予習をしっかりとやってきていただければ、理解度の向上に繋がります。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

総合的評価としては、やや達成されたという判断です。ただし、6「授業の進め方とその向上について」に記入させていただきましたが、課題もあります。来年度は、本年度の反省を生かし、受講学生の皆様により関心を持っていただける、理解しやすい「食品衛生学実験」に努めてまいります。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎調理学実習	1	前期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①実習内容（献立）を事前に知らせ、技術の必要な献立は動画を視聴し、当日の実習がスムーズに行われるように促した。</p> <p>②レポート提出後の修正や指導は、クラスルームを通して、個別指導を徹底した。</p> <p>③調理初心者の学生であるため、安全や衛生面の指導を徹底し、事故のないように配慮した。</p> <p>④楽しく、おいしくをモットーに実習を行った。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>成績の評価点は76.9±12.2点、再試が2名であった。90点以上が17.1%、80点代が25.7%とまずまずのレベルであった。</p> <p>到達度自己評価の平均値と中央値は (1) 目標の達成：4.3、4.0、(2) 知識の確認修正：4.6、5.0、(3) 事象を理解する考え：4.1、4.0、(4) 課題を検討する力：4.6、5.0、(5) 的確な判断：4.4、5.0、(6) 学習意欲：4.6、5.0、(7) 必要とする技術の習得：4.5、5.0であった。この結果より、学習意欲の向上や知識の習得、的確な判断、技術などが習得できたと考えられる。</p> <p>授業の質の評価では (1) 課題の評価が明確は平均点4.5、中央値5.0、(2) 学習範囲の明確さは平均点4.6、中央値5.0、(3) 説明の理解しやすさは平均点4.6、中央値4.0であり、総合的に理解しやすかったと考えられる。</p> <p>最終課題とプレゼンでは、自宅でのお弁当作成を課題とした。食材の買出しや調理器具の使用法、加熱器具の取扱いなどの他、調味料や食材の計量から盛付に至るまで、ひとりに対応しなければならなかったため大変ではあるが、これらをこなしたことにより、専門的知識や技術の習得の自己評価は比較的、高いものであった。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。授業評価の結果より、目標の達成や技術の習得などが行われているため、学生自身の達成感が見込める。上学年への専門知識の習得に向け、専門の基礎固めとして、内容的には妥当であるとする。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、自己啓発や研鑽しようとする態度は受け身であると思われた。

③まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価の(4)「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」では平均点4.0、中央値4.0であった。基礎調理の習得であるため、いろいろな調理を複数回こなすことで技術や知識が身についていった。上手くできないことでも、班で協力し合い、しっかりと打ち合わせや役割分担を決め、作業に取り掛かっている様子がうかがわれた。実習内容に余裕があれば、「自分の意見をまとめる」、「話し合う」などの時間を取り、発表させるなどの参加型授業も組み込んでいきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

予習を行わずに調理実習に参加すると、材料や分量の間違い、作業の失敗など効率が非常に悪い。対策としては、実習前の予習として、作業工程表を作成させ、その工程表をもとに調理実習を行っている。また、調理技術やコツが必要な献立に関しては、動画等を事前に視聴してもらい、イメージを膨らませて実習に参加するよう促した。1年次の基礎調理であるため、混乱は免れないが、少しずつでも各自ができるようになるように実習を積み重ねていく。また、さらなる調理技術を身につけるため、自宅で調理を行うなど、自発的に行動するよう促している。これと同時に、栄養価計算のための知識や調理学から食品学、栄養学に至るまでの知識の習得も必要となるため、レポートの内容から、理解が不十分であるとみられる学生に対しては個人指導を行うようにしている。

本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため、基礎的知識の形成については概ね達成できている。しかし、「実習中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の評価がやや低かったため、実習前に「話し合う」などの時間を取り、グループ内で打ち合わせなどを活発に行えるよう組み込んでいきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	高崎 智子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床基礎医学実習	3	前期	必修	いいえ	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①管理栄養士は、医療の現場において対象者の栄養状態や健康状態を把握したうえで、栄養管理や指導内容を設定することが重要になってくる。医療チームの一員として医療現場の実際を理解するために、医療面接・身体診察法・生理検査法等に関する知識を修得できるように実習内容を設定した。</p> <p>②新型コロナウイルス感染予防対策として、体調チェック、マスク着用、換気、消毒などに留意しながら実施した。また手洗いの精度を視覚的に確認できるよう手洗いチェッカーを利用した実習をオリエンテーションで実施した。</p> <p>③肝臓・胆のう・膵臓・腎臓疾患について理解するために、腹部エコー検査を使った実習を新たに組み込んだ。</p> <p>④女性に多い乳がんを理解するために乳房触診モデルを利用した実習を新たに組み込んだ。</p> <p>⑤禁煙指導・節酒指導に関する実習を新たに組み込んだ。</p> <p>⑥各実習の最初に、臨床医学検査と疾病との関連についての知識を確認するために、プリント資料を利用した講義および質疑応答形式による導入を行った。</p> <p>⑦実習の終了後には、実習時間内にレポートを作成するよう課した。その後に解答例を提示し、実習時間内に知識を定着させるよう努めた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>実習内容と疾患との関係については2年生の疾病診断治療学にて学んでいるが、各学生の学修準備度はさまざまである。できるだけ多くの学生が検査を実際に体験できるようにし、グループワーク・事例検討や質疑応答の機会を増やす等、主体的に参加する工夫を行った。レポート作成に際しては、インターネットを利用して情報検索することも促すとともに、参考となるURLを提示し、信頼性のある情報を得る方法について指導した。</p> <p>学習到達度の自己評価は3.9～4.1点（昨年度 3.7～3.9点）であった。全項目において昨年度より0.1～0.3点上昇しており、10項目中8項目で4.0点以上であった。今年度は、女性として知識を得ておくべき乳がん検診に関する実習や脂肪肝の診断に役立つ腹部エコー検査を新たに導入したことなどが「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」などの学生の満足度につながったものと考え。特に「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目は昨年度より0.3点高く、禁煙指導・節酒指導に関する実習を新たに組み込んだことが自己評価の向上に寄与したのと考え。全員が自分なりの目標を達成できたことと答えており、教育目標は概ね達成されたと考え。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される分野であり、また管理栄養士として就業するにあたっては高度の医学的知識を必要とすることを学生も理解している。学生による自己評価において、全員が自分なりの目標をある程度達成したと考えていることから、内容的には妥当であると考えます。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
管理栄養士国家試験に出題される領域のみならず、就職後に医療の現場において必要とされる知識を想定して実習内容を構成した。ほぼ全員が、学びを深めたいと意欲を持つことができた肯定的に自己評価しており、内容的には妥当であったと考える。

③まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による到達度自己評価は3.9~4.1点と概ね肯定的であり、全員が自分なりの目標を達成したと答えている。授業の質評価は4.0~4.1点であり、特に「説明の理解しやすさ」「自分の意見を発表し質疑応答する機会」への評価は、昨年度より平均値が0.2点高かった。双方向性の実習への取り組みが評価につながったものと考えます。今後も発表の機会を増やし、興味を引く事例を提示する等により、モチベーションを高めることができるようさらなる工夫を重ねていきたい。なお自由記述より、他教科の課題が多いために授業外学習時間を確保することが難しいことが伺えた。実習時間内にレポートを作成できるよう時間配分し、実習時間の中でレポートの解説まで行ったことは、効果的に知識を定着させ、学生の満足度を高めることにつながったと考える。実習が楽しかったとの声を複数いただいたことは教員にとっても喜びである。

またインターネットを利用したと答えた学生は40%であったが、実習の中で情報検索を利用し、出典の確かな正しい情報を選ぶ方法について指導した。インターネットを正しく利用して学修に活用していく方法を今後も指導していくことが必要であると考えます。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

生活習慣病に関して病院で実際に実施される検査を体験できるように実習を設定したことは非常に有意義であった。また高齢化社会等の社会的状況と関連付けた実習は学生の関心を高めることにつながったと考える。効果的に発表・グループワークや質疑応答の機会を持つことができ、専門基礎科目にあたる本科目における臨床的基礎知識の修得については概ね達成できたと考える。実習レポートの内容に関しては、事例を検討する自由記述に加えて、疾患に関する重要知識を設問として問うた。これによって、これまでの授業で学んできた疾患と実習で学んだ事例とを関連付けて理解しやすくなったものと考えます。実習レポート作成を含めて実習時間内に知識を定着できるように取り組んだ。今後も、管理栄養士に求められる最新の医学的知識を得ることができるように、実地に即した実習内容へと適宜更新し、学生がより主体的に取り組み、意欲関心を深めることができるよう工夫していきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎栄養学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	61

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①基礎栄養学Ⅱは選択科目となっているが、基礎栄養学Ⅰ(必修科目)に続く、基礎栄養学の後半を講義する科目なので、全員に履修するように指導し、実際に全員が履修している。ただ、「資格取得に必要」あるいは「関心のある内容」と答えるものが例年少ないため(今年もそれぞれ53.3%と11.1%)、管理栄養士国家試験の受験資格の取得に必須であること、栄養学の基礎的知識が管理栄養士の実践の場でも重要であることを強調していきたい。</p> <p>②授業の最初に学習準備のため、オリエンテーションを行ない、授業計画表を配付した。</p> <p>③授業で使用するパワーポイントのスライド資料は、毎年、一部を改訂し、よりわかりやすい内容になるように努めている。今年は、コロナ感染がある程度落ち着いたため、すべて対面で授業を実施したが、学生の自由記述には、「もう少し(学生に)伝わるように話す」、「専門用語が多い」、「早口で聞き取れない」などの要望・苦情が「遠隔」の時より多かった。基礎栄養学は教える内容が多いため、時間内で終わるためにどうしても一方的な早口の授業になりがちなので注意をする必要がある。授業内容を縮小してでも、学生の理解度に合わせたゆとりある授業を取り入れる必要があるのかもしれないが、国家試験の出題基準に沿った内容を講義することを考えると、それもかなり難しい。</p> <p>④授業内容を予習・復習するための練習問題および、分野別に分類した国試過去問約5年分とその解説を配付し、予習復習の助けとなるようにした。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>期末試験成績のA、Bクラス合せた平均点(100点満点)は70.0点(±15.0)であった。今年度の期末試験は昨年度と同様に対面で実施されたが、平均点は昨年度(74.5±12.8)に比べやや低下していた。今年度の成績の内訳は、A(90点以上)6名(10%)、B(80～89点)8名(14%)、C(70点～79点)19名(32%)、D(60～69点)19名(32%)、E(59点未満;本試験不合格)7名(12%)、受験資格なしが2名であった。本試験不合格者7名のうち、5名は再試験で合格し、2名は再試験を受験しなかった。クラス別の平均は、Aクラス:70.7±13.7、Bクラス:69.4±16.3で、ほぼ同じレベルであった。</p> <p>授業評価アンケートの「到達度自己評価」では、各評価項目の今年度の評価点の範囲は3.4～4.0で、昨年(3.3～4.0)とほぼ同じレベルであった。特に、この科目のDPとして挙げている「知識・理解」(DP1)に関する項目(項目(2)「知識の確認、修正と新知識の獲得」と項目(3)「事象を理解する視点や考え方」)及び「思考・判断」(DP2)に関する項目(項目(4)「専門分野のさまざまな課題を検討する力」と項目(5)「専門分野において的確に判断する力」)については評価点が3.9～4.0と、昨年度(3.8～4.0)と同様に比較的高評価であった。ただ、看護学科および福祉学科の「知識・理解」と「思考・判断」に関する項目の評価点(看護学科4.1～4.3;福祉学科4.0～4.2)と比較すると、評価がまだ低いので、今後の検討・改善が必要である。</p> <p>以上の結果より、全体的には概ね教育目標を達成できていると考えているが、期末試験の成績が低下したこと、授業評価の評価点が他学科に比べて低いことなどは、その原因について十分検討し、改善する必要がある。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP、CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」の選択科目であるが、授業準備の項でも述べた通り、基礎栄養学Ⅰ(必修科目)と連続した内容の科目なので、全員が履修するように指導している。基礎栄養学ⅠおよびⅡの内容は、国家試験に多く出題される分野であり、その重要性は学生にしっかり伝えている。この科目の重要性に対する学生の自覚がまだ十分とは言えないが、「到達度自己評価」および「期末試験成績」もほぼ良好であることから、内容的には妥当であると考えます。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性
本科目のDPである"知識・理解"(DP1)および"思考・判断"(DP2)に相当する"到達度自己評価"が比較的高得点であったことから内容的には妥当であったと考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今回(2022年度)の講義はすべて対面で実施したが、「授業の質評価」の各項目の評価点は3.4~4.0の範囲にあり、すべて遠隔で実施した2021年度、2020年度の評価(2021年度:3.5~4.0、2020年度:3.5~4.1)とほぼ同じレベルであった。2019年度以前の対面で実施した授業の評価(3.1~3.6)に比べると、少しづつではあるが、評価が上がる傾向にある。これは、練習問題や国家試験の過去問題集を早い時期に学生に配付して予習・復習に役立つようにしたこと、また、授業の最後に練習問題を学生に答えさせる時間を設けたことなどが評価の改善につながったものと思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

期末試験の成績および到達度自己評価からみて、基礎的知識の形成については概ね達成できていると思われる。また、その日の授業のまとめとして練習問題を学生に答えさせるようにしたこともあるが上がる傾向にあるので、これからもなお一層、改善に努めたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用栄養学Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	61

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①応用栄養学Ⅰは、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が100%であることは当然の回答である。「関心のある内容である」が20%と低いことに関しては、学生の関心をひきつけるような講義の実施が出来なかったことも推察されるため、講義内容の見直しも図りつつ、続く応用栄養学Ⅱの講義に関心をもって臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。</p> <p>②今年度前期は対面による講義であったが、これまでと同様、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。また、毎回の授業終了前に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえた。小テスト、授業理解度の自己評価に関しては今後も続けていく予定である。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、試験結果から評価した。結果はA,Bクラスで、A(秀)が11.5%で、B(優)が24.6%であり、C(良)が17%、D(可)が23.4%であった。不可の学生は18%であった。DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、小テストへの取り組みにて評価をおこなった。受講生80%が標準的レベルに達しており、11.5%の学生が理想的レベル(今回は秀90点以上として試験を作成し評価した)に達していた。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、受講生の多くに、受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断および意欲関心に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、約58%の学生が講義の課題以外に学習に取り組んでいない、また約40%が予習および復習を一度もしていない。シラバスを活用し、予習・復習を促すことは実施したが、他の教科の課題との関連もあり、学習時間を設けることが難しいことをアンケートの自由記載のところに書いている学生が多かったため、学修時間の確保に関しては学科全体で検討していく必要がある。また対面講義ではこれからも小テスト返却による復習の促しを続けていきたいと考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している。また、専門基礎科目から専門科目へのつなぎの科目（基礎から専門への入り口科目）でもありと考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果、授業アンケートの自由意見から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価では、約58%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は50%と高かった。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だというのが学生たちにあると考えられる。また、講義の初回にシラバスを配布し、一緒に目を通してため、その後にシラバスを参考にする必要がなくなったことも考えられる。今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に行い、常にシラバスを参考にするように促していく。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促した、昨年度に比較すると予習・復習を実施した割合が上がっているため、今後も同様の方法で予習・復習を促していく、さらに、予習・復習課題の作成を検討していく。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、専門基礎科目から専門科目へのつなぎや入り口にあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからは講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	永原 真奈見

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養教育論Ⅱ	3	前期	必修	いいえ	67

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本3年生においては、「栄養教育論Ⅰ」の科目は遠隔講義により実施し、本科目「栄養教育論Ⅱ」から対面講義となった。対面講義の利点を実感する学生がいる一方で、生活が一変することへの戸惑いを感じている学生もいることが推察された。</p> <p>②今回の受講動機をみると「必修科目である」が96.6%であったのに対し、「関心のある内容である」がわずか6.8%と非常に低かったことは、この講義への関心の低さを示唆するものであった。</p> <p>③授業の最初に、将来の希望職種に関する調査を行い、管理栄養士の資格を生かした職を希望する者が多いが、悩んでいる学生や既に別の方向に興味を抱いている学生も一定数含まれていることを確認した。そこで、将来的に母親や家族の介護者等になる可能性にも言及し、職業だけではなく、日常生活など広い視点で関心が持てるように配慮した。管理栄養士としての就職を希望している学生の就職先の分野は、保育園や小学校、病院、行政等、多岐に渡っていたので、様々な対象における知識が深まるよう配慮した。</p> <p>④授業の始めに毎回、確認テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終試験の得点の平均値 (±標準偏差) は77.3 (±12.2) 点であり、90点以上が12.3%、80点以上90点未満が36.9%、70点以上、80点未満が32.3%、60点以上70点未満が13.8%で、約半数 (49.2%) が80点を超える理想的レベルに達した。最終的な成績の内訳は、Aは6人(9.2%)、Bは20人(30.8%)、Cは29人(44.6%)、Dは9人(13.8%)、Eは1人(1.5%)であった。なお不可となった1名は、再試験未受験が理由である。</p> <p>項目別に見ると、知識理解を問う問題 (65点満点) の得点の平均値 (±標準偏差) は53.9 (±8.5) 点、平均得点率82.9%、思考判断を問う問題 (35点満点) の得点の平均値 (±標準偏差) は23.4 (±5.9) 点、平均得点率66.9%であったことから、知識理解については目標が「達成された」、思考判断については「やや達成された」と判断した。意欲関心や態度、技能表現については、講義への出席率や毎回の小テストの成果、発言の積極性等から判断して、個人差が非常に大きかったことから、「やや達成された」と判断した。</p> <p>学生による授業評価においては、学習量について約4割の学生が「30分程度以上の復習」の頻度を非常に少なく回答していたが、毎回の小テストでは点数が取れている学生が多かった。ポイントを絞っていたため短時間で復習できた可能性も考えられるが、次年度は小テストの方法を再検討したい。また、2名が「授業の記録をしなかった」と回答していたが、全員の授業記録ファイルを確認し、記録をとっていたことは確認済みである。</p>					
*根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生の授業評価アンケートの結果など, できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」, 「学習到達度の自己評価」, 「学習量の評価」, 「学修のための情報利用」, 「図書館, インターネット利用」, 自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」であり、必修である。管理栄養士国家試験の受験科目の一つでもあることから、様々な理論の理解が求められると同時に、就職後の現場で活かすための実践的思考力を身に着けることも重要である。事例を多く交えて、ライフステージ別栄養教育の理解が進むように工夫し、学生も、小テスト及び本試験において一定以上の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 DP到達度自己評価における平均値は全ての項目において3.5～3.9であり、否定的回答は少数であった。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目に関しては、5名（59名中、8.5%）が否定的回答であったが、遠隔講義であった前年度に比べると発言の機会を増やせたことから、否定的回答の割合は低下した。コミュニケーション力や表現力に関しては実習科目の中で十分に補填しており、本科目は知識の定着に主眼を置いていることことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目の前座科目である『栄養教育論Ⅰ』が遠隔講義であったため、小テストも遠隔実施しており、その取り組み方にばらつきがあったことが推測される。対面での小テストの実施が初めてであったことから、実施方法が確立できておらず、少なからず混乱が生じたことは反省点である。次年度からは実施方法を見直したい。</p> <p>学生の意見として、「たまにマイクを使用しないときに聞き取りづらかった」というものがあったので、毎回使用するように配慮したい。また、「小テストに出る内容が分かりづらかった」というものがあったので、スライドの中に明示する等の工夫を心がけたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>臨地実習に臨む上で、さまざまなライフステージにおける栄養教育の方法論を学ぶという観点から、基礎的知識の形成については概ね達成できたが、本科目の授業外の学習量が少なかったことは課題である。その理由として、昨年に引き続き、「時間がなかった」や「他の教科の課題が多かった」等が挙げられていた。この点については、学科の教員と連携をとる必要があると考えている。但し、前年度に比べると「授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習」において「小テストの勉強」との回答が大変多くみられたことから、対面実施となったことで意識は高まったと考えられる。実施方法に対する混乱がみられたことから、次年度は改善していきたい。</p> <p>小テストを実施することで講義の要点を周知し、学修のポイントを絞ったことで、最終試験の知識理解を問う問題は正解率が高かった。一方、思考力・判断力を要する問題の正答率は7割弱であったことから、応用力を高められるように、記述問題への取り組み方等についてもしっかりと教示する必要性があると感じた。</p> <p>以上から、小テストの実施方法を確立すること、応用力の養成に力を入れることに留意していきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	花田 浩和

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養治療学Ⅰ	3	前期	必修	はい	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>臨床現場における栄養管理は正常な人体の構造と機能を理解しておく必要があります。授業ではこれまで学んできた学習の内容を取り入れるようにし、疾病に伴う異状や特性を踏まえ、臨床栄養管理のポイントを説明するようにしました。また、臨床現場での経験など紹介することで臨床栄養管理に対する興味や関心が高まるように努めました。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>授業評価アンケート結果における「2.到達度自己評価」では概ね良好な評価を得ることができましたが、「3.授業の質評価」「4.学習量の評価」「5.情報利用」「6.図書館利用」において、自発的な学習と発表、学習に対する情報収集などに対する評価が低かった。授業内容を提示し、事前学習を促すような取り組みが不足したと考える。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP、CP、カリキュラムマップにおける栄養治療学Ⅰに位置づけについては、「1.到達度の自己評価」の到達度などから妥当であると考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の計画及び内容について事前に説明しておくこと、授業内容を紹介しておくことが、授業の予習や図書館の利用につながると考えます。

授業について資料の字が小さいことやホワイトボードの字が見にくいなどの意見がありましたので、今後は改善していきます。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

総合的評価としては、やや達成したと考えます。課題としては、事前学習が十分にできてない状況があること、参加型の授業になっていないこと、図書館の利用が少ないことなどがあります。来年度はこれらの反省点を生かし、臨床栄養学に関心が高まるような講義内容、実践的な情報の提供などを進めてまいります。

※本講義の授業アンケートの回答率が低いことから、十分に受講者の意見や考えを反映してない可能性を踏まえ、より良い授業にできるように努めます。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	坂田 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆栄養学Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①「公衆栄養学Ⅱ」は専門教育科目であり、管理栄養士国家試験受験資格に必修科目であることから受講動機をみると「必修科目である」が94.1%であったのに対し、「関心のある内容である」が14.7%と低かったことは、この講義への関心の低さを示唆するものであった。授業に関心をもって臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。</p> <p>②授業準備性について、予習復習を実施し授業に臨んでいる学生がほとんどいない。他科目の課題が多いことから、事前事後学習の時間が十分に確保できないのが現状である。地域において健康・栄養改善のために何が行われているかイメージできるように、事例を多く紹介し、興味を持つように工夫した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>DP2-1(思考判断)、DP3-1(意欲関心)、DP5-1(技能表現)に関しては、試験およびレポート結果から評価した。結果はA(秀)が3.0%で、B(優)が11.9%であり、C(良)が43.3%、D(可)が40.3%であった。不可の学生は1.5%であった。平均値(±標準偏差)は70.0(±13.4)点であった。</p> <p>学生による授業評価においては、思考判断の観点では100.0%、意欲関心の観点では94.1%、技能表現の観点では94.1%の学生が肯定的回答をしていたが、一部に否定的回答もみられたことから、次年度は全学生に配慮が行き届くように改善していきたい。</p>					
<p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は「専門教育科目」であり、管理栄養士国家試験の受験科目の一つでもある。公衆栄養学Ⅱは、公衆栄養学Ⅰを理解した上で地域での様々な課題に対応した事業企画能力が求められる。また、実践的思考力を身につけることも重要である。行政管理栄養士が実際に行っている業務の紹介を多く交えて、理解が進むように工夫している。授業の質評価で「説明は理解しやすいものであった」の項目に関する評価が88.2%であったことから、内容的には妥当であるとする。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
自己評価において「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目に関する評価が91.2%であったことから、内容的には妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価では、64.7%の学生が予習を、55.9%の学生が復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は50%と高かった。講義の初回にシラバスを配布し説明を行っているが、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していき、常にシラバスを参考にするように促していく。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、課題を与えレポートの作成の説明を行いながら学習する習慣がつくように検討していく。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、臨地実習（公衆栄養学）に必要な科目である。学習到達度の学生自己評価から、概ねDPを達成できたが、予習・復習や授業外の学習量が少なかったことは課題である。今後は学生が自ら提案・発表させるような工夫をすることにより、知識の定着を図れるように取り組んでいきたいと考える。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
給食計画論	2	前期	必修	はい	65

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>管理栄養士および3年次学外実習の要件科目であり、専門科目としては初期に履修する科目である。以上のことから、履修動機としては「必修科目である」が100%を占める。管理栄養士として栄養・食事管理を計画する過程を学ぶ科目であるが、現カリキュラムからは「食事摂取基準」に関する理論を学ぶ科目が1年次に開講されるようになったため、学生準備性は高い状態となり、栄養管理の指導に関しては非常に実施しやすくなっている。しかし、受講学生の計数能力の向上はみられず、給与栄養量などの算定方法等が含まれる本講義では、演習を取り入れながら理解を促すことに努めている。</p> <p>本科目は、後期科目「給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ」の準備科目としての位置づけもしており、実習内容を意識させながらの講義を行っている。実際に、3年生前期科目「給食経営管理実習Ⅱ」で提供される給食の試食も義務化し、レポートを課している。給食の試食を通して、栄養・食事管理の実際に触れる機会としている。これにより、給食経営管理実習への関心の高まりを確認できている。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価の「授業の質評価」および「到達度自己評価」を見る限り、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(100%)、「課題を検討する力」(100%)、「的確に判断する力」(98.1%)、「学びを深めたい意欲」(96.3%)では回答者の多く(評価中央値:4.0)(昨年度:97%(評価の中央値4.0))が『そう思う』と回答しており、高い評価が得られている。多くの学生が良好な学びを進める中、残り3%弱(2名ほど)は『そうでないと思う』と回答しており、専門的な内容が難しく、昨年度同様に授業進度についてくることが困難な学生の存在がいると思われる。また、定期試験結果では平均64.9±12.9点であり、標準レベルの理解度は得られていたことがわかる。以上、授業評価の回答状況から推察して、DP1・DP2についてはやや達成されたと評価される。一方で、「学習量の評価」では、46.3%(昨年度41.4%、一昨年度25.9%)の者が予習に、68.9%(昨年度61.4%、一昨年度13%)の者が復習などの授業以外の学習の取り組んでいる状況であり、年々増加傾向にある。明らかに予習・復習に取り組んでいる学生が増えており、この理由としては、今回の項目の予習を呼びかけたことや、国家試験に関連する項目について強調したことが近年の結果に影響していると思われる。また例年通り、限られた授業時間の中で教授可能となるように周知する知識とその優先順位を絞り、無駄を省いたことが影響したように思われる。これにより、DP3の達成度はやや達成されたと判断した。</p>
---	---

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は専門応用分野としての位置付けであり、栄養・食事管理の実務的な科目である。また、管理栄養士の職務に直結する科目の中でも、最も早く履修する科目でもある。したがって、管理栄養士という専門職種への関心を向上させる意味でも重要な位置づけを持つと考えられるため、得られた知識を実践につなげることができるような授業計画が求められる。現在おこなっている「演習を併用した授業構成」は、到達度自己評価の結果からもみて、理解を深めることに一定の効果を得ていると考える。DP3に関しては、学生の自己評価から中央値4.0（平均値4.1）ポイントという数値が得られているが、受講態度を含めて総合して評価する必要があるように思われる。一方で、「評価基準」、「説明の理解しやすさ」については中央値4.0（平均値4.1）ポイントと評価しており、授業内容や方法に関しては適切なものであったと考えられる。以上のことから、内容的妥当性は問題ないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目は、給食経営管理実習の準備科目として説明すべき重要項目が多くあり、一方向からの講義形式になりがちである。このため、重要箇所の確認を意識して行い、復習すべき項目を毎回指示した。このように修得すべき知識の優先順位を明確にしたこと、及び特に復習すべき項目を明確に提示したことから、学生間の学習への取り組み意欲では予習・復習をする学生が昨年に引き続き増加傾向を示した。一方で、毎年のことながら、多様な学生に専門的な内容を理解させることの難しさを感じる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本学科の2年次前期という時期は、専門科目が多くなり、学生が今後の進路の適正に関して不安を抱く時期でもある。講義で得られた知識が、実践へと移行している現場を観察してもらうため、毎年、3年前期・給食経営管理実習Ⅱで提供される給食の試食を義務付け、専門科目への学習意欲の向上が認められている。また、生産管理の単元では、これまでの給食経営管理実習の実習風景の写真を活用し、実習内容への理解と受講意欲向上に努めた。昨年度より修得すべき知識の優先順位をより明確にできるような講義を心掛けているため、自宅学習への取り組みは昨年度より改善されたと考える。一方で、学内実習や臨地実習で必須の知識や技術と国家試験で初めて必要となる知識とは明確に区別し、講義内容をより精査する必要があると感じた。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用栄養学実習	3	前期	必修	いいえ	67

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①応用栄養学実習は、講義の応用栄養学Ⅰ、Ⅱの実習科目であり、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が100%であることは当然の回答であり、「関心のある内容である」が16.1%と低いことに関しては、昨年度同様、応用栄養学Ⅰ、Ⅱ（2年前後期）の講義が、学生にとっては関心を引き付けるような内容でなかったことや、本実習科目を応用栄養学の実習科目であることの理解につなげることが出来なかったことが考えられるため、講義における応用栄養学の内容に関して、次に続く実習に結び付けながら学生のモチベーションを保ちつつ、本実習に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある。</p> <p>②今年度は対面での実習の実施であった。内容や進行は、今までと同様、学生に献立を調理させる前に示範をし、調理の際の留意点や栄養補給法のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養学上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えている。授業評価の自由記述には、興味を抱くことが出来たと考えられる意見が挙げられており、今後も試行錯誤しながら実習内容の検討を続けていく。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>今回はDP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)、DP4(態度)やDP5(技能・表現)までを、レポート課題や献立課題および試験結果から評価した。結果は67名の受講生中、A(秀)が10.4%、B(優)が26.9%で、C(良)は23.9%、D(可)が16.4%と秀および優で約37%と多かった。A(秀)やB(優)の学生が多いことは、意欲・関心を持って受講したことが考えられる。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断、意欲関心そして技能・表現、態度全てにおいて自己評価が高い。この実習への関心の高さは、課題内容と自己評価で判断することが出来た。また学習量の評価では、61%の学生が予習および復習を行っていた。このことは課題の提出が義務であったからという理由も考えられるが、シラバスにおいて予習・復習をする具体的な時間を記載していたことも学生たちの自学につながったと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また座学の応用栄養学の実習科目でもある。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価では、約61%の学生が予習、復習をしてきていた。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は45%であった。シラバスを参考にした学生の53%が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、この割合は昨年度よりも少し上がった。今後も実習初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の実習の進め方、課題提出や自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定であるが、学生の傾向を捉えながらシラバスをもっと活用していくように促す必要がある。予習復習等自己学習に関しても、課題以外の学習をも取り組むことが出来るように、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。課題のためにインターネットを使用したりなど多く(50%以上)の学生が情報検索の工夫を行っており、その点でも学習意欲の高さがうかがえた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、座学の応用栄養学の実習科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。これからも実習時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。(今年度も、シラバスに沿って授業計画を立てた学生(45%程度)とまだ少ない。また、教員のオリエンテーションに沿って授業計画を立てた学生(53%程度)も1/2である。)、

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	永原 真奈見

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養教育論実習Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	68

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、他者とのコミュニケーション力や個人や集団における教育力が求められる科目であることを周知し、発表等における内容の良し悪しよりも積極性を重んじることを伝え、意欲的な参加を促すよう配慮した。</p> <p>②受講動機において、「必修科目である」が95.2%であったのに対し、「関心のある内容である」は17.7%であった。関心をもって本実習を履修する学生の割合はまだまだ少ないが、前年度（着任時）はわずか4.3%であったことと比べるとやや改善傾向は認められた。</p> <p>③初回授業時に、前に出て発言する機会を設けた。大学入学以来、前に出ての発言や挙手による発表の機会は少なかったとのことで、人前で話をすることに苦手意識を持っている学生が多いことが分かった。そこで、毎回の実習の中で、学生が発言できる機会をより多く取り入れるよう配慮した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績の内訳は、Aは9人(13.6%),Bは28人(42.4%), Cは23人(34.8%), Dは6人(9.1%), Eは0人(0.0%)であり、全体の56.1%が80点を超える理想的レベルに達し、残りの43.9%も標準的レベルには到達した。					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。	栄養教育のためのリーフレット作成では、多くの学生が要点をとらえ、工夫を凝らした良いものを作成した。特定保健指導の初回面談試験においては、自信をもって指導を展開できた学生がいた一方で、シナリオを読むことに留まった学生もみられた。グループによる集団指導試験では、班員と協力して20分間の指導略案や学習教材を作成し、クラスの前で発表を行った。発表後に作成した改善案の内容から、各ライフステージにおける教育手法の理解が深まったと判断した。					
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義で得た知識を用いて思考・判断する過程はほぼ全ての学生が達成していたように見受けられたが、意欲的に挙手をして発表をしたり、明るい表情やジェスチャーを交えながら余裕を持って話をしたりする態度は全員が習得する段階までには至らなかったことから、知識理解及び思考判断は「達成された」、その他は「やや達成された」と判断した。次年度は、人前での発言を苦手とする学生のフォローを徹底して行っていきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」であり、必修である。臨地実習では、小学校や事業所、行政、病院いずれの実習においても、媒体の作成や個人あるいは集団指導の実施を求められることが多いことから、その基礎・基本を習得する上で非常に重要な科目である。そこで、毎回の実習の中で、学生自身が発言する機会を多く取り入れたところ、積極的な発言によりクラスを先導する学生がみられるようになり、全体としても初回時とは明らかに異なる上達が見受けられた。また、学生の発表内容から、様々なライフステージにおける教育手法の理解も進んだと判断できたことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 DP到達度自己評価における平均値は全ての項目において3.9～4.3であり、否定的回答は少数であった。特に「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目の平均値は4.3と高く、講義科目では身に付けることが難しい目標において学生が達成感を感じていたことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>前年度は、実習の後半で集団指導を展開したが、臨地実習準備の為他の科目における媒体作成と時期が重なり、学生に混乱する様子がみられたことから、本年度は、実習の前半で実施した。しかし、コロナ明けの対面への切り替えもままならない時期に、学生への負荷の大きい集団指導の実習を行ったために、「授業のペースが少し速いと感じた」「バタバタした」等の意見が寄せられた可能性が考えられる。来年度は対面への適応はできているとは思いますが、もう少し時間的にゆとりのある実習計画とできるよう努めたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>学生の就職後の活躍も踏まえ、栄養教育の手法を習得するという観点から、コミュニケーション能力や媒体作成の技術の習得については概ね達成できたが、学生の意欲や積極的な態度、表現の習得度に個人差が大きかったことは課題である。これについては、もっと学生全員に意識を向け、「関心が持てない」「学習のペースが速い」と感じている学生にいち早く対応することが重要であると考えている。来年度はさらに多くの発言の機会を設け、積極的な参加を促すことで実習の意義を感じてもらい、全員が自分の発言内容に自信が持てるよう配慮していきたい。</p> <p>また、「栄養教育論」の講義を通して基本的な理論に興味・関心が持てなければ、その理論を活用する本実習科目に興味を持てる可能性は少ないと考える。そのために、講義での理解定着を徹底させ、実習につなげていく意識を持たせたいと考えている。</p> <p>以上から、余裕のある実習計画とすること、課題を感じている学生にいち早く対応すること、講義との連携を意識させること、学生の発信力向上を目指すことに留意していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
給食経営管理実習Ⅱ	3	前期	選択	はい	67

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>選択科目であるが、栄養士・管理栄養士資格必修科目である。そのため、「必修科目である」と答えている学生が大半であり（93.0%）、また「資格取得に必要である」とする学生が57.9%であった。以上のことから、当該学年における資格取得への意識は高いことが示唆され、学習準備性に関しても十分であると判断される。本科目は、2年後期・給食経営管理実習Ⅰ（以降、実習Ⅰ）と連続した内容となっているため、実習に際して必要な内容は実習Ⅰで修得済みである。この前提の下で、各学生が給食のマネジメント行う実習となっているため、非常に自主性が求められる内容となっている。本年度はコロナ対策をしながらの実施となったため、実習内容は多くの制約を要した。通常は、実習Ⅰで習得した知識及び技術を活用し、給食経営のマネジメントを実践し、100食程度の大量調理を生産・提供する実習であるが、食数を大幅に制限して実施せざるを得なかった。しかしながら、現在のような感染症対策を実施しながらの給食の対方法の一つを学ぶことにつながったと考える。また新調理システムとオペレーションについてデモを実施し、新システムの知識修得の機会とした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された		どちらともいえない	

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の自己評価においては、「知識を確認、修復したり、新たに得ることができた」98.2%（昨年度100%）、「課題を検討する力を得ることができた」100%（昨年度100%）、「学びを深めたいと意欲を持つことができた」100%（昨年度100%）と評価しており、DP1（知識）およびDP3（意欲）については概ね達成されたと考える。また、学習量の評価では、「1回30分程度以上の準備をどれくらいしたか」に対して、予習・復習ともに75.4%（昨年度82.2%）の学生が1回以上は準備をしたと回答しており、課題を課すことで積極的な取り組みの姿勢が得られたと考えられる。また、最終成績は平均84.2±5.5であり、標準的な基準を十分にクリアした結果が得られていた。</p>
--	--

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

臨地実習Ⅰの準備性を高めるための科目でもあるため、特定給食施設の実務に則した内容を実施しているが、昨年度に続き感染症対策のもとで実施した。学生の自己評価では「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」100%（昨年度100%）、「職業選択の参考になった」100%（昨年100%）の評価が得られた。後期科目である臨地実習Ⅰに向けて、専門職に対する動機づけの強化につながったと考えられ、カリキュラムマップ上の位置づけは適当であると思われる。以上のことから、内容的妥当性は適切であると考えられるが、一部の学生に管理栄養士への学習意欲が乏しいものがあることが推察される結果が散見されるため、昨年度同様に、意欲の低い学生に対する指導方法を検討する必要があると考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価については、全項目とも中央値4.0～5.0と高いことから、授業の内容については適切であったと考える。さらに、「学習量の評価」で1回30分程度以上の予習・復習を実施した者が75.4%存在していたことを合わせて検討すると、学生が科目に対してある程度の準備性を持ち、また授業を受講するにあたり大多数の学生においてはモチベーションを維持していたということが推察されることから、授業の進め方に関しても適当であったと考える。一方で、情報収集の点ではインターネットの利用の頻度が高いため、引き続き、情報の正確性を見極めるメディアリテラシーへの指導強化をしていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生の到達度自己評価の結果から、管理栄養士として必要な知識及び技能に関する理解は深まったものと推察される。今後も、専門職として実務に携わるための指導を心掛けていくこととする。しかし、一部の管理栄養士の職務に対してのモチベーションが低い学生が出現している点に関して、実習を円滑に進める上でも指導方法を検討していこうと思う。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
総合演習Ⅰ	3	前期	選択	はい	67

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>3年後期・臨地実習Ⅰの事前指導を実施するための科目である。履修動機としては「必修科目である」が93.3(昨年度95.8)%を占め、「資格取得に必要」が56.7(45.8)%を占める。管理栄養士・栄養士資格必修選択科目であるため、前述のような結果となった。臨地実習に向けての、一般常識から特定給食施設に関する専門的知識の復習という広範な内容を盛り込んでいることから、オリエンテーションにて全体の計画を詳細に説明するようにしている。本年度は、対面形式で実施できたため、指導方法および内容自体は的確であった。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	どちらともいえない	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価の平均値は学年平均73.7±7.7点(昨年度83.3点)Aクラス平均72.7±7.9点、Bクラス平均74.7±7.2点であった。授業評価の「到達度自己評価」を見ると、「判断力」「課題検討」「意欲」「技術習得」「コミュニケーション力」等で大多数の学生が『そうだと思う』と回答しており、自己評価は平均3.9～4.0(中央値4.0)であり、例年とほぼ同等であった。また、「学習量の評価」では、56.7%(昨年度75.0%)の者が予習に、56.7%(70.8%)の者が復習に取り組んでいたが、昨年より減少していた。本科目では、学内における事前指導課題として統一の課題（プレゼンテーションを含む）に取り組ませているが、学生によって課題提出までの準備状況と提出後の指導を受けた後の課題内容の改善への取り組みの程度が異なっており、これが予習・復習の頻度に影響したと思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、3年後期より開講されている臨地実習Ⅰの準備科目である。特に臨地実習Ⅰは、最初の学外実習となり、社会規範や礼儀作法から指導を行わなければならない。そのため、専門科目の位置付けでありながら、専門知識の指導のみに重点を置くことができないという矛盾を抱える。新カリキュラム適用学年2年目であり、専門科目の修得が臨地実習Ⅰの事前指導に合致した状況が整っているため、給食施設における栄養管理の基本知識として不可欠なライフステージ栄養学を並行して習得できたことは、本科目の指導上でも大きな効果を得ていると考える。臨地実習Ⅰの事前指導科目としての位置づけでは、内容的妥当性は高いと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」では、3.9～4.1ポイント、中央値4.0(昨年度：3.8～3.9ポイント、中央値4.0)と高い評価であった。本年度の実施方法には、特に問題がなかったと考える。また、自由記述に評価のつけ方が不平等とあるが、課題の出来を客観的に評価した結果である。本年度の課題の質のみではなく、これまで評価してきた過去の課題の質も考慮し評価している。次に「連絡が遅い」との意見であるが、指導者側も様々な状況や天候不良による休講等に対応しながら、適切なタイミングでの指導計画をしている。誰の立場によるのかで連絡の「遅い・早い」は異なるのではないだろうか。試験に関しては、最初のオリエンテーションで、既に履修済みの『給食経営管理論』の基本事項を出題することを連絡している。さらに、講義日程変更や巡回指導担当教員の発表のタイミング、栄養教育指導実施内容に対しての指摘に関しての不満が述べられていた(1名)。このように全ての実施内容に関して個人的な不満を記述するのが授業評価なのだろうか？と疑問に感じずにはおれない。特に栄養教育指導実施への指摘や指導は必要なことであり、担当教員として当然のことである。(全く指摘を受けない学生などいない)</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は、学内で得た給食経営管理に関する知識と技術を学外実習(臨地実習Ⅰ)で実践可能とするための事前指導期間に位置付けられている。事前学習ノートによる知識の振り返りの必要性について指導したため、実習前の予習項目が明確になったと考える。一方で、社会規範に関しては、電話対応や挨拶、実習先での振る舞い等、必要最低限の指導は行えたと考える。なお、昨年度に引き続き、新型コロナ対策として、受け入れ先施設の安全を確保する観点から、次の対応を学生へ課したうえで、実習受け入れを許可いただいている。①実習1か月前からの基礎体温測定②実習1か月前からのアルバイトおよび交遊の自粛③実習2週間前から県外への移動の自粛④実習2週間前から基礎体温計測・記録および健康観察・行動記録の義務化(直前指導で提出させ、実習先へ提出義務化)⑤実習期間中のアルバイトおよび交遊の自粛。</p> <p>これらの対応を実施した結果、実習期間に学生および実習施設関係者の感染疑いおよび感染者を出すことなく臨地実習Ⅰが無事に終了したことを付け加えていただきたい。これらの対策を講じていても、現時点で全員の臨地実習が終了していないという、厳しい状況で学外実習の実施をしていることは理解してもらいたい。最後に、本年度は実習先から複数のご指摘を受けている。その多くは「常識に欠ける」との指摘であった。今後は『社会的な常識』についての指導強化が求められる。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
総合演習 II	4	前期	選択	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、『臨床栄養』および『応用栄養』の栄養学分野において、最新情報や重点事項を解説する。『臨床栄養』については、さまざまな症例検討を行い、これまでに学んだ臨床栄養に関する専門的知識を統合して、適切な栄養管理ができる実践的能力を養うことを目的としている。また、『応用栄養』では、食事摂取基準や身体活動基準、授乳・離乳支援ガイド等の厚生労働省が通知するガイドラインを活用し、各ライフステージに対応した適切な栄養管理が出来る力を養うことを目的としている。</p> <p>本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、学生の受講動機は『必須科目である：81.3%』、『資格取得に必要である：62.5%』と当然の理由であった。学修準備性について、例年4年次に開講される必須の授業科目が少ないこともあり、4年生だけは事前・事後学習の時間は十分確保されているものの、実際の事前事後学習の時間は十分とは言いがたいため、今年度の対面の講義では、資料の事前配付、講義後の確認テストの導入等、事前事後学習に対し強化することを試みた。今年度は、事前・事後学習(予習、復習)に取り組んだ学生の割合が62%と昨年度の74%よりも低かったが、授業の課題以外の学習に取り組んだ学生は約50%と昨年度より若干増えた。例年、予習復習をする学生としない学生を二分する結果が出ているため、次年度以降も事前事後学習の強化の継続と、自主性には配慮出来ないが、事前事後学習に取り組まない学生への提出義務課題の検討が必要と考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)、DP4(態度)、DP5(技能・表現)までを定期試験から評価した。本試験の平均値は57点であり、標準的レベル(60点以上とする)に至らなかった。レベル別にみると理想的レベル(80点以上)は3名(6.5%)、標準的レベル(60点～79点)が26名(56.5%)であった。不可は17名(37%)ととても多く、40%程度の学生は標準的レベルに至っていない。予習・復習を行っていたと回答した学生の割合は多いが、その学習が学生の講義理解に結び付いたのかの確認はできていないため、今回の試験結果から考察すれば、学生の講義理解には直接結びついていない可能性が考えられた。次年度以降は、標準的レベルに達する学生の割合を増やすこと、さらには、理想的レベルに達する学生を増やすことを目標に、教授法の見直し、予習の実施、復習テストの導入等、次年度の学習意欲や習得レベルに合わせた対応が必要になると考える。学生の到達度自己評価では、100%近い学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたことと回答していたにもかかわらず、約94%の学生が理想的レベルの知識と技術の修得、つまりは、実践的能力の獲得には至らなかった。自己評価と成績(結果)に乖離が見られているが、この教科への学生の学びを深めたいという意欲は高い(約95%以上)、次年度以降もその学年の学修レベルに合わせた教授法や講義進捗を考えながら、展開していくことが必要と考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、臨地実習Ⅱ・Ⅲを終えた4年次前学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、100%近い学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答している。試験結果に関しては、標準的レベルを達成できた学生が少なかったが、学生の受講意識と自己評価が高いことを鑑みると、講義の内容的妥当性については問題ないものと考え、次年度以降も学生（学年）の理解、修得レベルに合わせた講義進捗と講義内容の検討を試みる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。インターネットを使用したりなど多く(50%以上)の学生が情報検索の工夫を行っており、学習意欲の高さがうかがえた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は、臨地実習Ⅱ・Ⅲを終えた4年次前学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じである。学生の成績は普通レベルないしは標準より少し下であるが、達成度自己評価において、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたことから、講義内容等についての課題はないものとする。今後、より一層の学生の理解を深めるためには、学生の事前事後学習を促すための対策の継続が必要であると思われる。次年度以降も資料配布ならびに確認テストの継続、さらには第1回講義開始前のオリエンテーション時における事前事後学習の推進（今年度は、シラバスに沿って授業計画を立てた学生（43%程度）とまだ少ない。また、教員のオリエンテーションに沿って授業計画を立てた学生（17%程度）も1/5である。）、学習法の具体例の提示等、事前事後学習に対し、さらに強化していきたいと考える。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	長藤 信哉

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
薬事法規概論	1	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目の開講した目的は、「学生の就職に役立つ医薬品登録販売者資格取得を支援する」ことであり、4年前より開講した科目である。</p> <p>②医薬品登録販売者資格試験を受験しない学生にも、一般教養としてのセルフメディケーションの知識を高めてもらうために、身近な話題を取り入れた。</p> <p>③近年では、薬局やドラッグストアで活躍する管理栄養士も増えてきており、管理栄養士手当や医薬品登録販売者手当を支給する会社も増えてきており、この資格対策を行う大学も増えてきている。</p> <p>④昨年度に示した改善計画に基づき、実際の法律に即したPOPづくりなど、興味を喚起する内容にすることができた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①今年度の受講者の状況</p> <p>今年度は10名の学生が受講した。1年生の受講者が0名だったが、選択科目にも関わらず2・3年生が受講した事は、一昨年と昨年に食品学の非常勤講師として学生に案内でき、この講座や医薬品登録販売者の認知度が上がった結果だと思われる。</p> <p>②評価結果</p> <p>昨年度と違い、オンラインではなく、定期試験にて評価を行うことが出来た。</p> <p>成績は、平均点が87.9点、秀6名、優1名、良2名、可0名、不可1名（不可は出席日数不足）であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性

本科目は「専門選択」となっており、夏期集中講義にて実施されるため、学習意欲が高い学生が受講し良い成績を収めている。そのため、内容的には妥当であったと考える。

②DP、行動目標からみての内容的妥当性

成績評価より「知識理解」について十分満足できる結果が得られた。昨年度がオンラインのため受講態度の確認が困難であったが、今年度は対面授業であったため、その点は改善された。

③まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「学習量の評価：授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」として「時間が無かった」が見受けられた。集中講義の為、連続して講義を受け、定期試験を受験するため、ある程度は難しかったかと思うが、昨年度までの反省を生かし、定期試験が終わった後、医薬品登録販売者国家試験までに学習すべき内容は伝えており、国家試験受験者はそれを実践できるように配慮を行った。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①本科目の開講目的である、医薬品登録販売者受験のための知識養成、受験の動機づけ、一般教養としてのセルフメディケーションの基礎的知識の形成については、概ね達成できたが、一部学生の欠席や遅刻が目立ったため、対策が必要だと感じた。

②担当教員への意見で「限られた時間でしたが、楽しく授業を受けることができた」と書かれており、以前からの課題であった「集中力が切れないような工夫」がきちんと機能していたと思われる。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践調理・調理科学演習	4	前期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①この科目は「専門基礎科目」、「専門教育科目」の「実践活動・専門研究」の選択科目である。4年後期に開講される。</p> <p>②受講動機は、「友人が履修している」66.7%と最も高く、「関心のある内容」が33.3%、「単位数を確保する」が33.3%であった。4年前期の選択科目であり、実践調理や調理科学等に関心のある学生が受講したと推察される。</p> <p>③演習であるため100分以内できるコンパクトな調理科学実験や試作等を組み込み、1年時に修得した調理理論、調理操作の復習及び新しい食材や人気の食材等を使ったメニューの試作を試みた。</p> <p>④毎回、実験レポートや試作後のレシピの作成を課題とし、それを評価の対象とした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された			やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>学生の自己評価到達度の平均と中央値は、「知識を確認、新たに知ることができた」が4.7、5.0点と高く、調理科学や調理実践に関心のある学生にとって有意義な履修となっていた。成績平均値は76.7±8.2点であった。受講生は6名で実践調理は得意であるが、レポート作成が苦手であった。実験レポート作成やレシピ作成のスキルも向上する必要がある。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は「専門基礎科目」、「専門教育科目」の「実践活動・専門研究」の選択科目である。4年後期で新たに調理理論や実践に興味を示し、さらに調理技術や知識を修得したいと考えている学生のためにも、より新しい内容で、卒業後役に立つ演習を検討していきたい。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
調理科学に興味を示し、実践し、知識の復習及び修得が可能であるため、妥当と言える。

③まとめ
以上より、内容的妥当性に問題はないと思われるが、履修学年を下学年とし、早い段階で調理科学実験等を修得させることを希望する。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

選択科目であるため、調理に関心のある学生に限定されるが、下学年で修得した調理学の復習及び確認をすることが第一の目的である。さらに、食材の調理科学としての特徴だけでなく、特殊食品の取扱いやかたさの調整、その測定などの応用までを実践できるよう、簡潔な実施内容の検討が必要である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は、実験や実践による確認や経験を必要とする実践演習である。
可能であれば、調理実験や調理理論は、下学年で修得させ、応用調理や技術向上につなげていくことが望ましい。
また、4年生で実施する場合は、発注や食材の保存、デモンストレーションの準備など調理の実践に必要な全体のマネジメントや計画等も実施できるように進めていきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	花田 浩和

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床栄養管理演習	4	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>臨床栄養学の基礎知識を確認し、各疾患の学会ガイドラインなどを使用して、疾患の病態と栄養管理のポイントについて説明した。症例検討では、臨床現場の経験を紹介し、教科書の記載内容と実際の栄養管理で注意すべきこと、患者の病態が著しく変化していくことなどを説明し、特に臨床栄養管理におけるモニタリングとアセスメントの重要性について説明した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>授業評価アンケート結果における「2.到達度自己評価」「3.授業の質評価」では概ね良好な評価を得ることができたが、「4.学習量の評価」「5.情報利用」「6.図書館利用」において、自発的な学習と発表、学習に対する情報収集などに対する評価が低かった。授業内容を事前に提示し、情報収集や事前学習を促すような取り組みが不足しいと考える。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP、CP、カリキュラムマップにおける栄養治療学Ⅰに位置づけについては、「1.到達度の自己評価」の到達度などから妥当であると考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

疾患及び病態の説明や症例検討の際に、グループディスカッションや討議する時間と回数が少なかったと反省する。授業における時間配分を見直し、考える時間や発言する機会を増やすことで、コミュニケーション力が向上し、栄養治療学の理解と栄養管理に対する興味が高まると考える。また、授業の計画及び内容について事前に説明しておくこと、授業内容を紹介しておくことが、授業の予習や図書館の利用につながっていくと考えます。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

総合的評価としては、やや達成したと考えます。課題としては、事前学習が十分にできてない状況があることがあり、図書館や情報収集が少ないことです。来年度はこれらの反省点を生かし、臨床栄養管理に関心と興味が高まるような講義内容、実践的な情報の提供などを進めてまいります。
※授業評価アンケートの回答率が低いことから、十分に受講者の意見や考えを反映してない可能性があることを踏まえ、より良い授業にできるように努めます。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実践活動	3~4	後期・前期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ライフステージ別の食教育を含めた料理教室の運営活動を行っているが、企画～準備～実施～評価～改善を通して、学生の自主性を重視して指導を行っている。活動は一部制限があったが、障害者支援施設の給食部門と連携し、一般成人向けの昼食用弁当の企画・生産・販売する取り組みを実施した。この取り組みは、給食施設管理栄養士および調理師との連携が必要であり、指導教員の担当科目の専門性にも合致した内容である。学生及び施設側との打ち合わせ、弁当献立計画、修正等のやり取りは全て遠隔で実施した。この取組から、企画から商品化という過程を学ぶことにつながったと考える。毎年のことながら、履修学生の大半の受講動機は「関心のある科目である」であり、取り組み意欲の高さが窺われ、担当教員の指導方針との整合性が得られていたと考えられる。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>回答者が1名であるため、適正な評価ができない。しかし、他学科や学外の担当者とのかかわりの中で「行動規範」については学ぶことができたのではないかと考える。また「職業選択の参考」としては有益に働いていると思われ、実際に、例年のゼミ生は希望職種への就職を果たしている。これらは、DPの目標に到達したとする十分な判断材料であると考ええる。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

4年間の学習内容を総合して取り組むのが自薦活動であると考えられる。また、本活動は大学生生活で得た知識・技術を実践する活動内容であり、これを活用して学外の企業や施設との会議の際に提案を行わなくてはならない。これらの実践的な活動の成果が、到達度の自己評価の結果に表れていると考えられ、内容的に十分に妥当であるとする。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

実際の活動状況から、特に「学生の参加する機会」「話し合う」「質疑応答」の機会が十分に確保できていたと思われる。多職種と協働で仕事を行っていく必要があるため、その訓練ができたのではないかと考える。本ゼミは、学生の完全自治によって運営する方針をとっている。指導教員はアドバイスをするとどめており、学生が主体的に考え、行動し、結果を得るという十分に経験することができたと思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本ゼミは、活動内容が多い上に、学生の自主性に重きを置いているため、時間外での話し合いや作業が多く求められる。2015・2016年度の総括として「履修学生が毎年入れ替わることを考えると、学生の資質によっては負担に感じる内容である可能性がある」と検討課題を示し、2017年度の活動では、ゼミ活動に関するオリエンテーションを行い、活動内容と時期、役割分担を詳細に確認する時間を設け、活動内容を十分理解したうえで参加できたとする。2018年度は大学自体への出席率が低い学生への対応の難しさを課題に挙げた。2019年度は特に問題なく活動を進めることができた。そして、2020年度であるが、大学全体の休講措置のため、活動自体が制限され、例年実施していた多くのゼミ活動を中止せざるを得なくなったが、管理栄養士の特性を生かすことのできる活動を計画から販売まで実践することができ、学生にとっては4年間の専門教育で培った学びが十分に生かす機会となった。2021年度は、一部の活動制限がある中で、状況に適宜対応し運営を行った。このため、スケジュール変更が頻繁に発生し、履修学生全員が同レベルで参加するという機会がなかなか得られなかった。活動方針がはっきりと決まらなかったことが本年度の反省点である。2022年度については、まだまだコロナ禍の影響が拭えず従来通りの活動とはいかなかったが、ある程度活動が実施できたとする。ただ、2018年度改正カリキュラム運用の2年目として感じることは、「活動のしにくさ」であった。3年後期～4年前期までという履修期間は、3年後期に専門科目の実習が多く入るため十分な実践活動時間を確保するには難しく、科目開講期間としては不適切であると言わざるを得ない。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	藤和 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
実践活動	3~4	後期・前期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①実践活動では、公衆衛生学、栄養疫学の知識を生かして、大腸癌の疫学と2型糖尿病の疫学について研究した。</p> <p>②週一回の抄読会を行い、先行研究について発表をおこなった。</p> <p>③学生たちの勉強意欲を高めるため、ゼミ中の質問や討論を増やした。</p> <p>④調査資料の整理、エラーチェック、統計ソフトの使用などについて、できるだけ自分がすることに徹底した。</p> <p>⑤アルコール代謝酵素遺伝子多型の実験をし、自ら実験操作をして、応用力の向上を目指した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①発表成績の平均値は84.6点であった。論文の読み、説明は非常に良かった。</p> <p>②昨年度と比べると、成績平均点は上昇し、理想レベルより高かった。</p> <p>③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も100%で、知識理解、思考判断、技能表現、関心意欲、態度については目標が達成されたと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性
本科目は「演習」であり、実践能力、判断能力及び論理的思考能力を訓練する科目である。

②DP, 行動目標からみての内容的妥当性
成績評価から知識・理解、思考判断、意欲関心、態度及び技能表現に関し、すべて目標は達成した。

③まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が5.0で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.8であった。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は4.8で、授業の内容はよかったが、「説明は理解しやすいものであった」の平均が4.8であった。次年度に向けては、もっとゼミ生が自分で考え、自分で計画をして、研究をすることを推進したい。

学生の意見として、感謝の気持ちを書いてあったが、今後もっと学生の学問に関する科学的考え方を育ていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

実践活動である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面、技能表現及び意欲関心の面では課題をすべて達成した。
授業過程を振り返ってみたとき、授業中、勉強内容が少し狭い範囲で、今後、幅広い知識を吸収するよう努力を行っていきたい。
講義スライド、配布物（授業の参考資料）に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進度と内容説明について改善して行きたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実践活動	3~4	後期・前期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、選択科目であり、できるだけ本人の希望するテーマに沿ってゼミを進めていった。</p> <p>②7名の希望者のテーマは、障害児を対象とした食育活動、高齢者施設を利用する高齢者の栄養調査などであった。そのため、対象者にあった対応や支援の方法について学べる活動とした。</p> <p>③食育活動では、食育テーマの決定、プレゼン方法、実習の準備や流れ、全体の総括などを、栄養相談では、高齢者の対応、栄養指導法、機器測定方法など学べることを目的とした。</p> <p>④本人の意思により、それぞれのゼミ活動に参加していたため、学生のペースにあわせた活動とした。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>コロナ禍により、外部での活動が難しかったため、学内でテーマに合わせた試作とそのデモンストレーションをグループごとに行い、実践した。また、井筒屋とのコラボ商品である、おせち料理の監修に携わった。その結果、到達度の自己評価の平均は、4.3～5.0点、中央値が4.0点、授業の質の評価の平均は4.8～5.0点、中央値が5.0点と高い結果であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性
本科目は「専門教育科目・専門分野」の選択科目であるが、自分で選んだテーマについて、自分の力で文献を調査・検討し、最終的にまとめることが目標であるため、内容的には妥当であると考えます。

②DP, 行動目標からみての内容的妥当性
コロナ禍であり、外部の活動や調理実習などができず、実践的活動の場を持つことができなかった。

③まとめ
以上からコロナ禍のゼミ活動内容の検討が必要である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

コロナ禍により、外部での活動が難しく、活動内容を学内での試作とデモンストレーションに切り換えて行った。平均点は、4.8~5.0点、中央値は5.0点であり、授業の質の評価はおおむね良好であった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

専門教育科目・専門分野にあたる本科目は、自分で調べ、自分で企画し、実行し、結果を出せることが、目標である。これまでの学習に加え、企画力や実行力、責任感や社会性なども問われ、自身の実力が試される科目である。しかし、昨年度までは、コロナ禍で地域貢献などの外部活動や調理実習などがあまりできなかったことから、このような状況下であっても、社会人として管理栄養士として、卒後に活かすことができるような活動内容を検討することが今後の課題であると言える。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職課程の必須科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、授業内容の精査は常に行ってきた。</p> <p>②全体を、教職の歴史の変遷、法制度などの基礎的知識理解を深める部分と、教職をめぐるさまざまな具体的事例の考察の大きく二つに分けて、授業を組み立てた。</p> <p>③後半の教職をめぐるさまざまな事例の考察は、昨今強調されている「チーム学校」という考え方を受けて、学校教育を支える多様な機能に焦点をあてて構成した。スクールソーシャルワーカー、不登校対応専任教員、夜間中学教員、院内学級担任、部活指導員などの実践例を映像を通して、教職の幅の広さ、奥の深さの認識を深めた。</p> <p>④学生同士の意見交換を大事にしたいとグループワークを積極的に取り入れた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①評価は、数度のレポート提出の合計点で行った。</p> <p>②90点以上1名、80点以上90点未満2名、70点以上80点未満1名、60点以上70点未満1名、60点未満（不合格）2名、全体の平均点は72.2点であった。成績としては、低調といわざるを得ない。</p> <p>③「知識理解」については、授業及びレポートで当該課題についての調べ学習をまず行わせたが、これについては比較的よくできていたと評価できる。しかし、調べ学習をもとに自らの課題としての認識を深めるまでにはまだ十分ではない。2年生ということもあり、まだまだ進路についての自覚や目的意識が明確になっていないからと考えられる。</p> <p>④グループワークを積極的に取り入れたことで成果もあったが、人数が多いこと、学生が慣れていないこともあって活動しているだけというグループがあった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性

本科目は、教職課程の科目であり、ほとどの大学でも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的な妥当性については問題ないと思う。

②DPについて

教職課程独自のDPがないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①声がこもりがちの上にマスクをしているので、学生に聞き取りづらいという感想が多かったのは大いに反省している。できるだけゆっくり話すことを心がけたい。

②授業中に行った発言に対して批判的な意見があり、それについては真摯に受け止めたいと思う。しかしながら、明らかな誤解、憶測、思い込みによる批判については、納得はしていない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①1年後期に開講される「教育原理」が教育学への入門的科目であるので、本科目が職業としての教職に関する専門科目としては最初のものである。ガイダンス的な科目として、幅広く学校教師の仕事についての理解を深めようと考えたが、前半と後半で学生の態度に違いがあった。やはりグループワークを取り入れ具体例を考察した後半が反応がよかった。

②次年度からは、自らの課題と感ずることが出来るような授業構成と方法を改善したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	大庭 正美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	3	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①学習指導要領における特別活動及び総合的な学習の時間の位置づけや特質、内容などについて基本的な知識理解を中心としながら、小中学校での指導の実際についても取り扱い、実践的な態度の育成に資する授業に努めた。そのため、できるだけ実践事例の映像資料を活用していった。</p> <p>②授業の終末には授業内容を振り返り、シートに記入させるようにした。そこで出された気づきや疑問などを次の授業の導入で取り扱い、再確認できるようにするとともに、深い学びにつながるように努めた。</p> <p>③授業の内容に応じて、学生自身の学校での経験を想起させ、重ねて考えることができるように促した。そうすることで、理論と実践がつながりやすいようにし、就職後のイメージをもちながら学修できるよう配慮した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>授業後の振り返りシート内容及び試験の結果をもとに判定したトータルの成績において、70点以上を獲得した学生は9名中2名だった。また、到達度自己評価においては、学科平均との比較において(4)(8)(9)(10)の値は同等以上だったものの、他は学科平均値よりもやや低かった。したがって、DP4及びDP5においては目標を「達成」、DP2は「やや達成」と判断したが、DP1、DP3は「どちらともいえない」状況と判断せざるを得なかった。それらを総合し、全体を通しては「やや達成」と判断した。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

卒業後、学校全体の児童生徒の指導に当たる栄養教諭をめざす学生にとって、健康教育や学校経営と密接につながっている特別活動及び総合的な学習の時間の指導内容は非常に重要である。したがって、学生には専門分野に限らず学校風土や児童生徒理解などへの関心を持ち続けることが求められる。そのような意味から、学生の自己評価での項目(8)「コミュニケーション・表現」(10)「職業選択の参考」が高い評価だったことなどから、内容的な妥当性は高いと判断できる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」項目の(4)(5)が学科平均より高かったのは、毎回の授業の振り返りを着眼点ごとに分類整理し、それにコメントを加えて次の授業の冒頭で共有する時間を設定していたことによるのではないかと考える。その点では効果があったと判断できるものの、(3)「説明の理解のしやすさ」の評価が今一つだった点は反省点といえる。今後なおいっそう 実際場面がイメージしやすくなる映像資料を効果的に活用するなどして、より理解しやすい授業の進め方を研究していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

将来、栄養教諭をする可能性のある学生であるため、特別活動(主に学級活動)の内容においては食育や健康教育との関連を想定しながら授業を進めていった。特に、教育課程における特別活動の位置づけや役割など、特別活動の教育的な意義については繰り返し指導するように努めた。その結果、毎回の授業後の振り返りシートの記述などから、教職に対する意欲が向上していったことが読み取れた。
次年度も、特別活動及び総合的な学習の時間の本質を的確に理解できるようにするとともに、教職課程の授業として、教職への意欲を喚起し、より実践的な資質能力態度が向上するように、一単位時間の授業展開に関してもさらなる工夫改善に努めていきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
特別支援教育論	3	前期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学科の性質上、これまで特別支援教育や障害などについて学習する機会があまりないのではという前提で授業を展開した。テキストは15コマ用に編集されているので授業内容の予習・復習に利用するように促した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	テスト結果から概ね達成できたと考えられる。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

概ね妥当であると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

障害のある人や特別な教育的ニーズのある人と出会った経験がほとんどないことを前提に授業を進めた。8コマ授業であったため十分に内容が伝えられたとは考えづらいが、最大限の努力はしたと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

授業内容についてのみならず特別な教育的ニーズのある児童について初歩的な知識理解はできたと考えているが、学生がさらに主体的に学びを深めていくことを期待したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職課程の必須科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、授業内容の精査は常に行ってきた。</p> <p>②全体を、教育方法の歴史の変遷、学習指導要領の変遷などの基礎的知識理解を深める部分と、教育方法の理論にしたがったさまざまな具体的事例の考察の大きく二つに分けて、授業を組み立てた。</p> <p>③具体的な実践について、学生同士の意見交換を大事にしたいとグループワークを積極的に取り入れた。</p> <p>④グループワークの実践的力をつけるために、主にKJ法を用いた演習を実施した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①評価は、数度のレポート提出の合計点で行った。</p> <p>②80点以上90点未満4名、70点以上80点未満3名、60点以上70点未満2名、全体の平均点は79.4点であった。とびぬけた学生がおらず、全体として成績はもうひとつである。</p> <p>③「知識理解」については、授業及びレポートで当該課題についての調べ学習をまず行わせたが、これについては比較的よくできていたと評価できる。しかし、調べ学習をもとに自らの課題としての認識を深めるまでにはまだ十分ではない。</p> <p>④グループワークを積極的に取り入れたことで成果もあったが、3年生の場合これまでの2年間がオンライン授業中心であったことから対面での授業を嬉々として楽しんでいる雰囲気があった。しかし一部には、人数が多いこと、学生が慣れていないこともあって活動しているだけというグループがあった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性

本科目は、教職課程の科目であり、ほとどの大学でも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的妥当性については問題ないと考ええる。

②DPについて

教職課程独自のDPではないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①声がかもりがちの上にマスクをしているので、学生に聞き取りづらいという感想が多かったのは大いに反省している。できるだけゆっくり話すことを心がけたい。

②授業中に行った発言に対して批判的な意見があり、それについては真摯に受け止めたいと思う。しかしながら、明らかな誤解、憶測、思い込みによる批判については、納得はしていない。とりわけ、事前のレポートの添削指導を「不公平」だという認識には、不満である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①2年時に履修した科目に引き続き、教職に関する専門科目としてはかなり専門的内容を含んだものである。これまでの学生自身の教育・学習体験を相対化、理論化できるようにとのねらいから取り組んだグループワークによる具体例の検証は、学生の反応がよかった。やはり「教育方法」という科目は、それ自身が教育実践として学生に提示されてしかるべきものであると改めて認識した。

②次年度からは、授業を通して学生自らの課題と向き合うことが出来るような授業構成と方法を改善したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	永原 真奈見

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
学校栄養指導論Ⅰ	3	前期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、栄養教諭免許取得を希望している3年生9名が受講し、少人数であることから、一人一人の発言の機会を増やすとともに、主体的に学べる環境づくりに重点を置いた。</p> <p>②今回の受講動機をみると「必修科目である」が100.0%、「関心のある内容である」が50.0%であった。資格取得の為に、関心度は低いを受講している学生も含まれていたことがこの結果から伺える。</p> <p>③将来的に栄養教諭として働くことを強く希望している学生や希望はしているが自信を持ってない学生が多いことが確認できたため、基本的な理論等に加え、現場で使用しているマニュアル類の紹介や学習指導案の作成・発表等を取り入れ、実践に役立つ知識や経験の習得ができるよう配慮した。</p> <p>④必修科目である「栄養教育論」で教示している内容との差別化を図るため、少人数を生かしたLTD話し合い学習を取り入れた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終試験の得点の平均値(±標準偏差)は89.9(±5.8)点であり、最高得点99点、最低得点82点と全員が8割以上の理想的レベルに達した。成績の内訳は、Aは4人(44.4%)、Bは5人(55.6%)であった。知識理解及び思考判断に関する項目に関する目標は達成されたと判断した。</p> <p>講義への出席率は大変高く、毎回実施した壇上からのスピーチにも意欲的に取り組む姿勢がみられ、回を追うごとに上達がみられたことから、意欲関心についても目標は達成されたと判断した。一方、態度については、LTD話し合い学習において、非常に積極的に発言する学生がみられた一方で、発言回数が少数であった学生もみられたことから、やや達成されたと判断した。</p> <p>学生による授業評価においては、到達度自己評価及び授業の質評価ともに、否定的回答はみられなかったことから、学生にとって知識の獲得や職業選択の参考等につながったと考えている。</p>					
*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「教職に関する科目」であり、免許を希望する学生は必ず履修しなければならない科目である。教職教養に関する講義科目は多いが、栄養教諭として働く上で必要となる知識や技能を身に付けるための講義科目は非常に少ないため、大変重要な科目であると理解している。学科の必修科目である「栄養教育論Ⅰ・Ⅱ」を担当していることを生かし、必修の講義で教示した理論等を実践的に活かせるような説明の仕方を工夫した。学生の積極性の向上や本試験の成績等を鑑み、内容的に妥当であったと考える。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 DP到達度自己評価における平均値は、「自分なりの目標を達成した」は4.1、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」は4.0、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は4.0と高く、他の項目についても全て3.8以上と高かったことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>小人数制の講義であったことから、全員に目が届きやすく、細やかなコミュニケーションを心がけたが、中でもどうしても積極的に発言する学生を中心に議論が展開する場面が多かったようにも思う。進んで発言することが苦手な学生に対して、いかに自分から進んで発言しようという意欲を持たせるかが重要であり、その点についてももう少し配慮が必要であったと考える。積極的な学生をファシリテーターとして、学生が学生の発現を促す等の工夫により、改善を試みたい。</p> <p>なお、学生よりの個別の意見については、記述がなかった。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>教育実習に臨む上で必要な栄養教諭に関する制度や法律、職務内容（特に学校給食管理や食に関する指導）、他職種連携等、本講義で修得しなければならない知識は非常に多い。意欲の高い学生が多いことから知識の定着は進んだと判断できたが、積極性については個人差がみられた。少人数であるからこそ、全ての学生が等しく向上できる機会を提供することが必要である。この点を特に改善していく必要があると考えている。</p> <p>以上から、次年度は、学生個々の特性に配慮し、全ての学生が自分なりの目標をしっかりと達成できるように配慮することに留意していきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
道德教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道德教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道德教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>○2021年度 全体平均81.3、栄養学科平均81.3、秀25.0%、優50.0%、良16.7%、可8.3%、不可0.0% 標準偏差7.11</p> <p>○2022年度 全体平均77.8、栄養学科平均76.3、秀0.0%、優50.0%、良37.5%、可0.0%、不可12.5% 標準偏差10.83</p> <p>○本年度は栄養学科平均が全学科平均と同程度であった。秀は0であるが、可が0となり、良が増加している。</p> <p>○昨年度と比べると最上位は減少したが85点以上が多く、良も全て75点以上であり、栄養学科全体としては満足できる結果であった。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道德教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>○授業の進め方としては(1)道德とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道德教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道德の授業を組み立てる、というものであった。</p> <p>(3)と(4)に関しては同時並行という形になり、常に自分ならどのような授業にしたいかを考えて授業に参加することを求めた。</p> <p>○本年度は実際の学校現場で用いられている各種資料の参照、理解度を深めるための課題等について多様な形式を工夫した。</p> <p>○指導案作りに関しては、いくつかの段階を踏んで作成できるよう課題作成・提出を組み合わせた。</p> <p>○今年度は道德教育の評価に関する学習を強化した。</p> <p>○児童生徒を意識した授業づくりの楽しさを一層感じることができる授業としたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>○達成状況は満足できるレベルにある。</p> <p>○次年度は各自が自分自身の伝えたい道德テーマを指導案の形で表現できるよう、内容や方法を改善したい。今年度は動画の授業実践の視聴と検討に時間をかけたが、これは比較的理解を深めるきっかけとなったと思う。次年度も同様の試みを継続する予定である。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度前期

学科	栄養学科
氏名	渡邊 義隆

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生徒指導論	3	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①3年生になり全員が資格取得を目指すわけではないが、厳しい職業と言われている教員を目指す学生の目的意識が非常に高い学生がそろっていたと推察される。</p> <p>②授業については、基本的な教育法規や生徒指導に関する知識を学習させた。特に最も重視したことは学生が教師として教壇に立った時にすぐに必要となる対応・指導・その後の見守り・保護者対応と実際の事例を検討する授業を展開させた。</p> <p>③さらに重視した点は授業のまとめを書かせる習慣をつけさせ、そのことが論文を書くことの苦手意識をなくす、更には自分の考えを論文にまとめることができるように指導を行った結果、最終試験である論文が非常にレベルの高いものとなった。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①最終的な成績は75点以上であり、平均的な結果となった。</p> <p>②目標別にみるとすべての項目で「かなり」「わりに」「まあまあ」で100%であり、すべてが肯定的回答となった。教職の免許取得に意欲的である学生がそろったことを踏まえると、授業が非常に前向きに進められたことから、すべての項目において目標に達したと考えられる。</p> <p>③昨年度の反省から授業形態についてはグループ学習を多く取り入れる予定であったが、今年度もコロナの関係上グループ討議を行うことができなかった事は残念であったが、授業の中で個々の学生からの発言を多く求め学生も積極的に発言をすることができたことは、学生からの担当教員への意見を見るところで好意的であり、目標を達成できたと考える。</p> <p>④「学習準備性」はほとんど行われていない現状は学生のアンケートによると「授業の中で十分に理解できる」との内容であった。</p> <p>⑤ほとんどの結果で肯定的回答を得られたことは、学校現場の具体的事例を中心に教師が様々な状況に対してどのように対応するか学習できたと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPカリキュラムマップ上における本科目の位置付けから見ての内容の妥当性としては、教員免許の取得に向けた受講であり学生の志向に応えるために、まさに現場の生の状況に触れることにより、対応や指導を学ぶことができる授業であり妥当性があるものと思われる。

②「学習到達度の自己評価」ではすべての項目で肯定的回答であり授業の到達度の目標が達成できたと言える。

③まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価においてもすべて肯定的回答であり、事例を取り上げて検討する機会を多く作ったこと、また担当教員が実際の学校現場で対応してきた実例を示しながら授業を進めた結果と考えられる。

学生の意見としては、「授業の説明だけで十分理解することが出来たから」との回答であった。

できれば様々な意見を聞けることのできるグループ学習を来年度取り入れられるとより授業が充実すると思われる。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

総合評価として、概ね良好であった。昨今、教師という職業は非常に大変である職業のように言われているが、子ども達の成長する姿、人生の一部であるが関わることのできる素晴らしい職業であることを、学生に伝えることができたのではないかと総合評価を感じることができた。

課題としてはやはり主体的に学生が授業に参加できる授業づくりができるように努力して参りたい。